

伊予路

No. 151

[平成27年3月]



愛媛県公民館連合会

表紙写真

丸穂牛鬼保存会

宇和島市の宇和津彦神社で行われる秋の例祭。このお祭りに、一際目立っているのが丸穂牛鬼保存会の「牛鬼」です。牛をかたどった竹組みの胴体に、丸木で作られた長い首。その先には恐ろしげな鬼面の頭…全身は真っ赤な布で覆われています。日本一古い頭をつけた牛鬼が数十人の男達に担ぎ上げられ、長い首を上下左右に振り回しながら町を練り歩き、家ごとに首を突っ込んで悪魔払いをする、その姿はまさに圧巻の迫力！

また、7月24日に開催されるうわじま牛鬼まつりでは、日本一大きな頭を使いこなし、宇和島市を代表する牛鬼として祭りを盛り上げています。

その活躍は、県内のみならず日本全国、そして海外までにも広がっており、ハワイへの遠征は今年で10回目を迎えました。また参加したそれぞれのイベントのトリを務めるなど、宇和島市外でも丸穂の牛鬼の凄さを見せつけています。

今の宇和島市の牛鬼が存在するのも、丸穂牛鬼保存会があればこそだと言われており、さらなる活躍が期待されています。まだご覧になったことのない方は、ぜひ生の牛鬼の迫力を味わってみてください。

〈目 次〉

◎ 表紙写真 《丸穂牛鬼保存会》	
◇「地域と歩む公民館」	愛媛県公民館連合会 会長 橋本 英厚…2
《公民館運営審議会委員からの提言》	
◇「学校では出来ない社会教育 ヘリコプター人間を養成しよう」	……今治市中央公民館運営審議会 委員 村上 正郎…4
◇「公民館活動・共に参加して」	……鬼北町三島公民館運営審議会 委員 程内 覚…5
《きてみなはいや おらが公民館》	
◇「あつまる まなぶ つなぐ 公民館を目指して！」	……松前町中央公民館 係長 渡辺 司…6
◇「青少年活動の現状と今後の活動について」	……八幡浜市立舌田地区公民館 主事 堀川 泰久…8
《あつまる・まなぶ・つなぐ》	
◇「かかわりをチカラに、つながりをカタチに」	……松山市久米公民館運営審議会 委員長 仙波 英徳…10
◇「音楽を通して住民との交流を」	……大洲市久米公民館 軽音楽サークル「おおぞアールド・バンド」バンドマスター 高橋 勲…13
《平成26年度社会教育功労者文部科学大臣表彰》	
	……（元）愛媛県公民館連合会理事 永原 修 氏…14
《優良グループ紹介》	
◇「澄んだ空気自然豊かな山里であじさいを」	……四国中央市嶺南公民館 嶺南あじさい会 会長 岩崎 健寛…15
◇「お山の学校ながた」	……内子町内子東自治センター 館長 稲葉 勉…17
《館長さん こんにちは》	
◇「西条市中川公民館 佐伯 武男 館長さんにご質問」	……質問者 西条市中川公民館 主任主事 永井 勝也…18
◇「久万高原町公民館明神分館 坂本 好直 館長さんにご質問」	……質問者 久万高原町中央公民館 主事 石丸 寛人…19
《元気な主事さん》	
◇「ふれあい」	……新居浜市立金栄公民館 主事 高津いづみ…20
◇「緑地域自主防災・減災訓練を実施しました」	……愛南町緑公民館兼僧都公民館 主事 飯田 英功…21
《郡市公連だより》	
◇「地域とつながる喜び～かみゆげ小さな文化祭～」	……越智郡公民館連絡協議会 事務局長 中西 智恵…23
◇「佐田岬13里見て歩き」	……西宇和郡公民館連絡協議会・伊方町中央公民館 主任 篠澤 隆之…24
《第26回全国公民館セミナーレポート》	
	……伊予市中山地区公民館 主査 川本 英人…25
《平成26年度愛媛県公民館研究大会》	…27
《県公連だより》	…44
《愛媛県公友会について》	…45
《編集後記》	…46

地域と歩む公民館

愛媛県公民館連合会 会長 橋本英厚



一 はじめに

昨年、台風のため県公民館研究大会（宇和島市大会）は中止、全国公民館研究会（北海道大会）は交通機関の不通により参加できない人達も出ましたことから、今年も心配をしておりましたが、両大会とも予定通り開催される運びとなり一安心をいたしました。特に県大会は、開会式場に入りきれないほどの参加をいただき、厚くお礼申し上げます。今年度は、青年層の方々の声を聞き、公民館活動を積極的に理解していただく意味で、パネルディスカッションを取り入れることに致しました。寺澤県公連専門委員会委員長はコーディネーターに、愛大名誉教授讃岐先生には助言者となって頂き、実りある会となりました。今後若い人達が積極的に地域の活動に入っていたことは、地域の活性化と後継者の育成という両面でも大変意義があることだと思います。

二 人づくりと絆づくり

公民館は戦後、実際の日常生活に即する各種の事業や学習活動を通じ

て人づくりや生活文化の振興、社会福祉の増進に努力してきました。

しかし近年、わが国においては、少子高齢化の急速な進行や人口減少社会、そして格差問題など大きな歴史の転換期を迎えております。

特に、東日本大震災以降、毎年のように異常気象とも言える自然災害に見舞われ、尊い人命が奪われるなど、人と人とのつながりが叫ばれると共に、生涯学習を通じた生きがいづくりやまちづくりを展開していくことが重要になってきております。公民館は、独自性を維持しつつ、他の部局や各種団体との一層の連携が必要であることは言うまでもありません。しかし、口では簡単に言えますが、多くの課題をそれぞれ解決していくためには、行政と地域住民（各種社会教育機関、団体）との信頼、更には、行政部局間の連携と信頼が重要であります。

三 公民館とまちづくり協議会

公民館とまちづくり協議会との関係については、「まちづくり」と「まちづくり協議会」が混同されやすいので、改めてはっきり区別しておきたいと思えます。

何故ならば、公民館はすでに社会教育法二十条の目的に基づいて人づくりやまちづくり活動を行っている社会教育施設であるということであります。

最近、公民館のコミュニティセンター化や指定管理者制度の導入の動きがあります。その理由としては、①表面的には公民館が教育行政の枠を超えて活用されている。②官と官では緊張感がない。③コミュニティビジネスができない。などと言われ、教育委員会から市長部局への所管換えなどが話し合われていますが、必ずしも納得のいく話し合いになっておりません。何故ならば、公民館は、民側として住民参加システムの中で、地域づくりの役割を持ち、施設は公の官設民営で、営利活動は制限されております。そのため、公民館と分館の設置とコミュニティビジネスとの関係性は極めて低いと考えております。



北条歩こう会 鹿島 (総会及び花見会)



北条安心・安全パトロール隊

脱却し、社会福祉、女性、青少年、人権、安心・安全などに関する課題や施策を進めていく中で、企業、大学、NPO、まちづくり協議会などの外部の団体ともお互いに連携、協働する、いわゆる「ネットワーク型行政」に転換し、社会教育行政の再構築を図ることが叫ばれております。そのためには、今後の公民館は、地域が抱える諸課題を把握し、その解決に向けて関係機関や多様な人材とのネットワークを最大限に活かしていくことが大切だと思われまます。愛媛県内の公民館もより一層連携を密にして、行政各種関係団体と情報を密にししながら、地域の皆さんと共に地域づくりにまい進していきたいと思われまます。

まちづくり協議会は、市のまちづくり条例で定めているように地域団体との協働による役割分担での組織であり、現時点では、行政の組織体制を論じるものではないという事を付け加えておきたいと思われまます。

四 安心、安全な地域づくり

東日本大震災以降、さらに地域の絆の強化が求められ、人命が優先される安心・安全な地域づくりへの計画や態勢づくりに関心が強まっております。

その中で、公民館が避難場所に指定されたり、防災教育も進められるようになりました。また、各地で自主防災組織や防災計画も数多く作ら

れていますが、果たして地域の声が反映しているか疑問であります。自治会や町内会と公民館が行政と協働しながら、計画や訓練などを早急に進めなければなりません。地域の声が十分に届いているかどうかの思いは強く、その一つが行政を含めて横の連携やつながりが今後の課題のような気がしております。

五 最後に

平成二十五年一月の第六期中教審生涯学習分科会の中で、今後の社会教育の在り方が示されました。

従来の「自前主義」である限られた人員や範囲の中での社会教育から

公民館運営審議会委員からの提言

学校では出来ない社会教育

へりコプター人間を養成しよう

今治市中央公民館運営審議会

委員 村上正郎



公民館運営審議会委員会のあと、委員の数人と喫茶店でコーヒーを飲みながらおしゃべりをするのが習慣になった。遠慮のない本音が出て結構楽しい。

「静かで、異見も出ない満場一致の会だったけど、かえって何かを忘れていくようで、落ち着かないね。」

「正解が用意されている案件には異見の出し様がない。すでに正解が用意されていたら、それは会議と言うより承認のセレモニーだよ。正解の無い案件こそ会議が必要なので、そんな会議はハチの巣をつついたようになる。でも会議とは、どれほど多数の異見、リスクへの懸念があるかを確認する場

だと考えれば、騒がしい会議こそ本物だよな。」

「ところが正解のない案件は、先送りされるか、無視されるんだよな。つまり新しい時代に対応する革新的な案件は、まだ正解が出てないから敬遠され、去年と同じ行事が繰り返され、大過なく時を過ごせたと安心するんだ。現在とは、今始まったばかりの未来の事だから、未来が未知である以上、必ずリスクがある。リスクのないものを選ぶのではなく、どのリスクを選ぶかが議題になるはずだろう。」

「農民的というのかな。農民は連帯感に生きる。商人は孤独を生き甲斐にし、他を競争相手と考える。農民は安定を求める。商人は不安定にこそ利があると考える。農民は安全を欲する。商人は冒険を望む。農民と商人を、地方人と都会人と置き換えてもいいが、タイプを言っているの、善悪を言っているのではないよ。ただ農村的共同社会が縮小し、都会的契約社会化が進んで、時代の変化も急激になっているから、従来型の習慣常識とは違う、正解の無い問題は増える一方だな。そんな中で繰り返すばかりでは取り残される。」

「伝統を守るといふ姿勢も大事だが、伝統

を守ると言うのは、同じ事を繰り返すと言う事ではなくて、生き残るという大前提を考えれば、時代の変化に対応して自身も変化し続けると言うことになり、パターン化は寿命を縮めるばかりだ。」

「優等生は、一つの問題に一つの正解があつて、それを暗記した人のことだろ。ところが、世間には正解の無い問題があり、複数の正解や、正反対の答えが同時に正解だったりすることがあるから、〇×式秀才には手に負えないわけだ。」

「正解をたくさん覚えた状態をインテリジェンスと言い、正解の無い問題に立ち向かい道をつける知性をインテレクトと言い、どちらも知性だが質が違う。日本の学校教育はインテリ知識人を造る制度で、個人能力（アビリティ）は伸ばすが、社会の、或いは組織の、人脈、資材、予算、情報などすべてのパワーを使いこなし、正解を作りだす能力（コンピテンス）は養成しない。インテリジェンスは一步步論理的に物事を進めるからダチョウの脚と言われ、インテレクトは飛躍するから鷲の羽と言われるらしい。こんな鷲の羽を持った社会的リーダーになる人材はどこで、どうやって養成するのかなあ。扉を開けて待つているばかりでは現れないだろ。」

「へりコプターに乗って、高い上空からグローバルな世界のベクトルを見極め、適宜、地上に着陸して、ワンポイントの現状を確認し、両者を同じレベルに乗せ道をつける、へりコプター人間がほしいなあ。蜂の巣をつついたようなプレンストリーミングが必要だ

な。それと論理的に左脳を刺激して問題を相手に理解させ、右脳を刺激する言葉で相手を

立ち上がらせる位に言葉を磨かなければな。養成は、公民館でやるしかないか。」

公民館活動・共に参加して

鬼北町三島公民館運営審議会 委員 程 内 覚



私たちの町は愛媛県南予地方に位置し、全国の自治体の中で、ただひとつ、鬼の付く自治体として、もっか売り出し中の鬼北町で私たちは生活しています。四万十川支流のひとつでもある広見川が流れ、自然、人情豊かな地域であります。そんな、当町も例に漏れず、少子高齢化著しい町ではありませんが、町内六ヶ所の校区に公民館があり、それぞれの地域にあった公民館活動をしています。

そのひとつでもあり、私の地元でもあります三島公民館の運営審議会委員になった平成十六年度には、十二名の審議会委員が委嘱されていましたが、翌々年から、町の都合により半減され、現在は六名で構成された委員会となっております。メンバーは、小学校長、青年団長、JA支所長、自治会長、婦人会長、

商工会支部長で構成され、年三回の定例会を持ち館長の諮問に対し全員で協議決定していきます。会の内容としては、年間事業計画案に対しての協議、年度中の中間報告、年間報告や次年度活動計画等をおこなっています。

当、三島公民館の活動は大変活発で、館長を中心に諸行事を積極的におこなっています。五十人余りの小学生に目をむけると、地元最標高山「戸祇御前山九四六m」にちなんで命名されている戸祇の子学級では、鬼北町の夏の一大イベントでもあります広見川上り駅伝大会へ参加し、川の中で元気に水しぶきを上げながら競争し、商店街で行われる土曜夜市での合唱会、敬老会とのクロッキー大会、しめ縄作りなど盛り沢山の行事をおこなっています。子供たちも素直に大人の意見を聞き、一緒に行動しながら地区住民や公民館と良好な関係を保っています。このような関係こそが公民館の果たすべき役割ではないかと考えます。

その中で私は、商工会支部長として長年審議会委員として関わらせていただいています。公民館活動に積極的に参加し、公民館を中心とした地域活性化に協力していきたい思

いでいます。毎年八月十五日には夏祭り、盛大に行う盆踊り大会、花火大会を開催し多くの婦省客や地元民で盛り上がります。中でも打ち上げ花火は周囲を山に囲まれている関係で反響音もすぐく響き、観客の真上にかかる迫力も重なり大変な人気となっています。

話は前後しますが、昭和四十五年五月十五日の夜、当地域の中心地であります小松商店街で火災が発生し多くの家屋が全焼した事故がありました。幸い人命は守られましたが、その教訓を生かして行こうということと近年、自主防災組織も立ち上げ、毎年五月十五日を防災の日指定し、公民館での講習会、防災訓練等を重ね、南海トラフ巨大地震など予測される災害時には、地域住民の拠点として活動できる体制づくり、また、防災意識の向上を目指しています。

私たちの地域も高齢化により、徐々ににはありますが、近年空き家が目立つようになり、寂しい現実もありますが、今いる世代の自分たちが伝統や文化を守りながら公民館を中心とした活動を続けていく必要性を感じていますが、欲をいうなれば委員も六名と言わず八名にしていただき意見を活発化し、顔の見える公民館として、地域行事を率先し引張り続けていく積極性や、既成行事のみにとられない柔軟な体制、新しいことにも勇気をもって挑戦することが住民にも支持されていく公民館になっていくのではないだろうか。更なる飛躍を求めたい。



きてみなはいや おらが公民館



あつまる まなぶ つなぐ 公民館を目指して！

松前町中央公民館 係長 渡辺 司

一 松前町の概要

松前町は、人口三万人を超える町であり、愛媛県下では、最も人口の多い町である。面積は、二〇・四一kmと小さいが、国道五十六号、伊予鉄郡中線、JR予讃線が縦貫しており、交通の便がよい上に、中四国最大級の大型商業施設の立地による新市街地の形成により、近年、更にまちに活気が出てきた。

松前・北伊予・岡田の三校区に公民館が一つずつと、本庁に中央公民館を設け地域の特色を生かした活動を続けている。

二 各地区の紹介

松前地区

西公民館の管轄する松前地区は、主に海に面し漁業を中心に栄えてきた。また、東レ愛媛工場の立地及び拡大による工業も町の財源と雇用拡充に一役かっている。

また、町の偉人義農作衛兵や行商人おたたさん、松前城跡など、松前町の歴史を担う地区となっており、公民館活動もそれらの特色を生かしてきた。

北伊予地区

東公民館の管轄する北伊予地区は、田園風景の広がる区域で農業を中心に発展してきた。はだか麦やレタスなど全国や県内でも生産量を誇る農作物が数々ある。

また、湧き水を生かした湧水公園の整備も行われており、癒しの場となっている。獅子舞や、いのこ等の地域の年中行事が賑々と受け継がれており、それらを生かした活動が公民館を中心に実施されている。

岡田地区

北公民館の管轄する岡田地区は、近年、大型商業施設の立地により、人口増加の傾向のある地区であるとともに、電車・スパー・学校・病院等が近距離にあるという利便性のある地区である。唯一、児童館と併設された公民館である北公民館では、子どもの活動の場として、放課後子ども教室等の充実を図っている。

三 チャレンジ合宿

中央公民館主催により、三地区の公民館を順番に会場とし実施しているチャレンジ合宿。九年目を迎えた人気事業。今年も、松前校区の小学四～六年生の希望者二十三人が、西公民館を拠点に、六泊七日で、掃除、洗濯、食事、入浴、宿題、楽しいつどいを経験しながら、学校へ通学した。

家庭と違う環境で、家族と違う仲間と過ごす一週間。子どもも保護者も職員も何かに「気づく」大切な時間である。子どもたちからの感想をいくつか紹介したい。



○私はこのチャレンジ合宿に参加して色々なものが身につきました。たとえば、はやおき、せんたくほし、調理などです。

○一日一日がすごく楽しかったです。泣いたり、笑ったり、苦しんだりいろいろなことがこの一週間でありました。最初は、みんなと友達になれるか心配だったけど全員友達になれてよかったです。

○私は、親と離れるのは、淋しかったけれどもとっても貴重な体験をしたと思います。時には、楽しく時にはけんかしていろいろなことがたくさんありました。そして、この合宿に参加して、友達の大切さ料理の楽しさいろいろなことを実感しました。

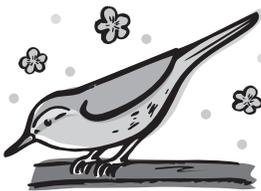
閉所式では、子どもも涙、親も涙、職員も涙。周囲に支えられ、生かされている自

分自身を見つめる機会になった。

来年は、町制六十周年の記念も兼ね、三校区の子どもたちが集い、合同で実施できる企画を計画。どんなドラマが展開されるか、職員の手腕が試される。

公民館での活動は、最も住民に近い場所での行政サービスであり、面白さと恐ろしさの二極面を持ち合わせている。よりよい住民の憩いの場となるよう、信頼関係と効果的な事業を展開し、面白さを増していかせていくことができるのは、主事であり館長であろう。そのためには、職員間の良好な人間関係、他館との交流や情報交換、近隣の市町の状況把握や地域のキーマンの発掘など、公務員としての資質と広い視野と探求心・好奇心等を常に持っている必要があるのではなからうか。

公民館は、住民の声が最も近くで、届く場所であるからこそ、職員は、丁寧な対応と真摯な姿勢で臨み「ありがとう」「また、来るね」の声が聞こえる場所でありつづけてほしい。



青少年活動の現状と今後の活動について

八幡浜市立舌田地区公民館 主事 堀川 泰久

一 舌田地区の概要

当地区は、国道三七八号線沿いに位置しており古くから農業と漁業が盛んで、市内中心部より南へ乗合バスで十五分程度の位置に在ります。山手は温州みかん中心の柑橘栽培、海側は舌田湾に面しており鯛を中心とした養殖漁業が盛んで沖合に多数のいかだが浮かんでいます。

十一月末現在で

世帯数 三百二十三世帯

人口 七百六人

(男性三百三十七人)

女性三百六十九人)

内七十歳以上の人口が二百四十七人で三五%であります。

二 舌田地区公民館の概要

舌田地区公民館の職員は館長（非常勤）・委託主事・主事補の三人で日々の業務を行っており、地区館の行事については舌間・合田の両自治館の館長他役員の協力を得て運営しており、自治館行事についても職員は互いに協力しています。

三 舌田地区公民館の青少年活動の取組

(一) 青少年キャンプ

地域での青少年活動は、古くは地区のVY



キャンプ

S会員によるキャンプが行われており私も小学生の頃に参加した記憶があり、現在は公民館活動の一環として、毎年、四年生以上の子供達を連れて県内のあちこちのキャンプ場に一泊二日の予定で事業を行っています。昨年度で地域の舌田小学校が閉校となり、現在は神山小学校に六名の児童が通学しています。

諸先輩方が築き上げてこられた、青少年キャンプを今年度は中学生にも参加を呼びかけましたが、部活等の関係で参加者は中学生

二人と小学生三人だけでした。漁船で大島に渡り海水浴を楽しみ、その後、部活の終わった中学生も加わり、公民館で焼肉等で歓談しながら楽しい一時を過ごしました。

(二) ボートレース大会

舌田小学校の恒例の行事として、以前は舌田湾遠泳大会が開催されていましたが、二十四年程前、瀬戸内海でサメ騒動が発生し、中止となりました。その後、現在の宮島様ボートレース大会及び地引網体験に引き継がれました。

内容としては、地引網体験を地域の小学生・中学生・教員・公民館関係者・漁業者等の協力のもと開催いたします。

前日に大漁旗を飾り、当日、午前八時頃より会場の設営を行い、開会式。最初に地引網



ボートレース



地引網

の体験を行うため、漁師の協力で地引網を湾内に設置し、しばらくして網を漁師の指導のもと参加者全員で引き揚げていきます。砂浜まで網を引き揚げると中には鯛・たこ等の魚がたくさん入っており、父兄が準備した飲み物と地引網で獲った新鮮な魚を、子どもたちに振る舞います。

(三) 舌田地区公民館 de 愛イベント
地域で特色のある行事としては婚活パーティーがあります。

五年前から行っており、結婚しない若者が多くなり、子供も減少している中で以前の区長の勤めもありはじめましたが、四年前からは愛媛結婚支援センターの協力も得て開催しております。

内気でおとなしい男性が多いためカップル



婚活

成立の無い時もありますが、二十三年度はカップルも出来、交際後、翌年ゴールインしました。二十四年度も一組カップルが出来、結婚しております。

昨年度は十月に開催し、女性に多数参加して頂くために松山駅までの送迎も行いました。募集方法として、地元の独身男性と県内外の女性を募集したところ例年になく応募があり七対七で婚活を開催して三組のカップルが誕生しましたが、一組だけ、現在も進行中です。

今年度からは、舌田・川上・真穴三地区の独身男性に参加して頂き、五月には川上地区でみかんの花めぐりと魚料理体験を行い、二組、カップルが成立しましたが、性格の相違や遠距離等の関係で現在はどうなっているかは不明です。

次に十月に真穴地区でみかん狩り・ピザ作りやフォークダンスを行って出会いを盛り上げました。七組中、四組のカップルが誕生しました。

四 おわりに

昨年度で小学校が閉校になりましたが、今後も地域住民の協力を得て青少年の健全育成を図るための各種行事を推進して行きたいと思っております。



あつまる まなぶ つなぐ

かわりをチカラに、つながりをカタチに

松山市久米公民館運営審議会 委員長 仙波英徳

久米地区概要

松山城の南東約五キロにある久米地区は、人口約三万。地区を北西から南東に国道十一号線と伊予鉄道が走っている。国道沿道にはロードサイド店が並び、北側は住宅や店舗が建てこみ、南側は田園が広がっている。地区の範囲は中学校区（四小学校区）に相当し、十一町内会で構成されている。

はじめの一步 情報価値は、興味・関心度で決まる

平成十九年、総務省全国都市再生モデル事業を、「NPOえひめ子どもチャレンジ支援機構」(※1)が受諾したのを機会に、地域にある二つの公設教育機関である、公民館と学校が協働で「まちづくり」を推進するために、久米地区で三回の住民意識アンケートを実施し、地域ニーズを把握した。

知りたい情報の積極群集計(表1)

一 不審者情報九七・〇%、子どもの安全・安心に関する情報九三・六%。

二 公民館や地域行事八九・五%、地域の危険箇所情報八八・〇%、学校行事八〇・六%。

三 ボランティア情報七六・一%、個人として発信する情報七四・六%、地域の歴史文化情報六八・六%、食に関する情報六一・

二%、協力店情報五八・二%

情報発信で消極群が多いのは、子どもの食に関する情報と地域の歴史や文化情報で六%。さらに、モデル事業アンケートに答えた人の、ボランティア活動に対する関心度は

①協力したい人七〇・四%、②協力したくない人一・三%、③どちらとも言えない人二八・三%(図1)

他の住民アンケートと比較すると、情報に接している人のボランティアの参加意欲(住民アンケートでは四八・五%)が非常に高かった。

このことから、ボランティアに関する興味・関心は住民の半数は持っている。さらに情報を得ている人は、それが、七割にも達している。Education more education の状態に久米地区もなっていた。そこで、関心度の高い安全・安心を中心に据え、事業を組み立てる。

世代をつなぎ学びをつくる

平成十七年から東京の「NPO法人しようまち」の提案を受け、公民館主体でまちづくりに繋がる安全マップ(※2)を作っていた。それをステップアップし、平成二十年三月に「つたえる」をキーワードにした「安全マップ」を作成する。内容は、小学生時代にマップづくりを経験した中学生をリーダーに、事

表 1

電子ペーパーで発信する情報についてのアンケート

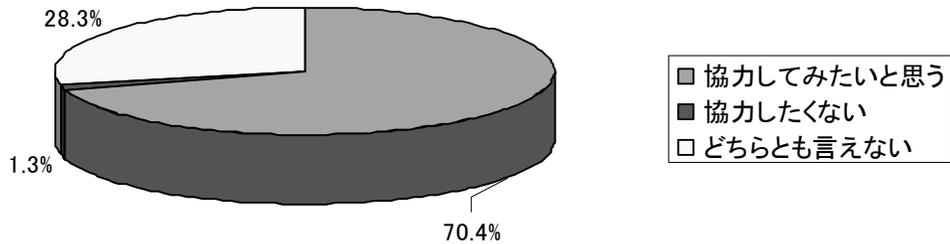
実施日19年11月14日久米地区健全育成連絡会

実施場所 久米中

サンプル数67

	1	2	3	4	5
	積極的な発信を	やや積極的	どちらとも	消極的	しないほうがいい
1 子どもの安全・安心に関する情報発信	56	7	3	1	
	83.60%	10%	4.50%	1.50%	
2 地域周辺に出没する不審者に関する情報	48	17	1	1	
	71.60%	25.40%	1.50%	1.50%	
3 地域の危険箇所(カキコまっぷ)に関する情報	36	23	7	1	
	53.70%	34.30%	10.40%	1.50%	
4 学校行事に関する情報	27	27	11	2	
	40.30%	40.30%	16.40%	3%	
5 公民館や地域の行事及びその活動に関する情報	36	24	6	1	
	53.70%	35.80%	9%	1.50%	
6 子どもの食に関する情報	19	22	22	3	1
	28.40%	32.80%	32.80%	4.50%	1.50%
7 ボランティア(久米ゆいま〜)に関する情報	25	26	16		
	37.30%	38.80%	23.90%		
8 地域の歴史や文化に関する情報	23	23	17	4	
	34.30%	34.30%	25.40%	6%	
9 募集や探し物など、地域の人が伝えたいと思っている情報	25	25	15	2	
	37.30%	37.30%	22.30%	3%	
10 電子ペーパーを設置する協力店に関する情報	17	22	25	1	2
	25.40%	32.80%	37.30%	1.50%	3%
合計	312件	216件	103件	16件	3件
	50.10%	32.20%	15.40%	2.40%	2%

図 1 情報に接した人のボランティア意欲



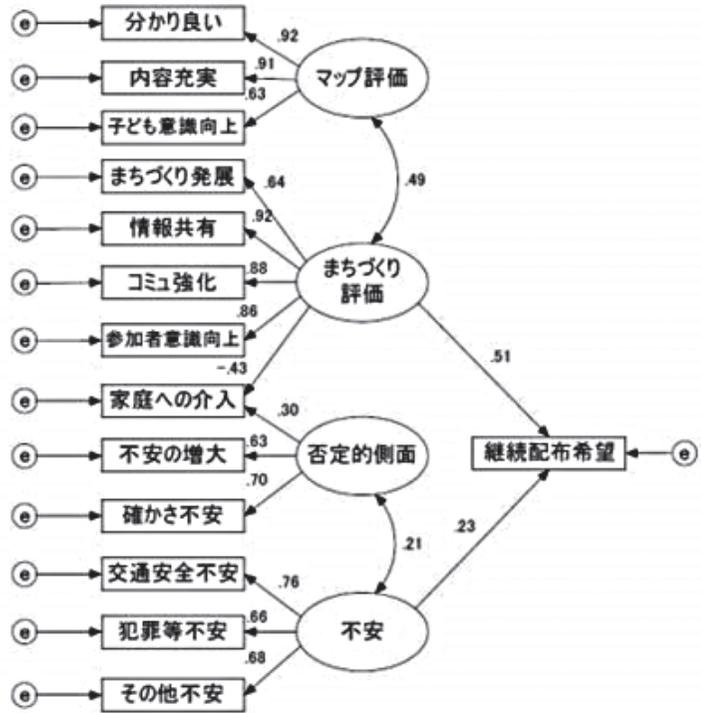
夢を波のように広げる
住民の関心度が高い安全をキーワードに、学校も巻き込んで事業を続けてきたが、安全には防犯だけでなく防災

そこで、翌年は、残りの三校も呼び込み筑波大学の渡和由研究室の学生の協力も得て、久米地区全小学校で新入生用イラストマップを作成・配布した。こうした活動を通して、興味関心があることを示し、多くの人が関わらないとつけない仕掛けをし、さらにそれが人の役に立つことを伝えていけば事業は廻っていく事がわかった。

配布後、五月に新一年生の保護者にアンケートをとると、実際に子どもと通学路を歩いた人四四%、子ども知人と話し合った人四一%、今後も継続的に配布して欲しい人九七%と高評価であった。(図2)

前のアンケート(対象・小四〜小六、中二の児童・生徒計二百二十二名、地域の大人二十二名)で挙げられた、街の素敵な所、交通安全・防犯の視点から、危険を感じる所を中心にルートを選定して、小学生・中学生・保護者・教諭・地域住民で一緒にまちを歩いて年齢により目線が違う事に互いに気づき認め合い、まちを点検する。そして、その情報をA2版のマップに記載して、それを新入学生に「つたえる」という事業である。

図2 「NPO法人しょうまち」によるアンケート分析結果



SEMの分析結果 (標準化推定値)
 カイ2乗値=78.21, df=73, p値=.317

樋野公宏著「安全マップを軸とした継続的な安全・安心まちづくりー松山市久米地区の事例報告ー」都市住宅学 no,63

の分野もある。防犯で出来上がった「かわりあい」「つながり」を防災にも繋げようと、平成二十五年から防災をテーマにした事業を仕掛けている。東日本大震災の後、公民館が独自に支援活動をしていた岩手県住田町の、実際に避難住民が住んでいた木造仮設住宅を一棟貰い受け、地域の防災モニユメントに活用しようという事業である。

もちろん、防犯にも危機回避能力の育成は欠かせないが、防災はそれ以上に個人の自主性の育ちが必要である。自助・近助・共助の仕組みづくりといってもいいかもしれない。そのために取り組んだ事業が、「防災まちあるきワークショップ」による防犯と防災の両情報を入れた「マップづくり」、岩手県住田町の町長を招いての「防災シンポジウム」、小学校とのQRコード使った合同避難訓練による「被災者名簿作成社会実験」である。

今後とも、事業に関わる一人ひとりの思いを大切にしながら、それをカタチにし、成果を見える化し、的確に伝え、次のつながりを生むことに努めたい。そして、無理をせず、



さざ波が広がるような地域の運動を続け、地域をつくる主体者を育てていきたい。

※1 平成十八年讀岐幸治先生の退官記念シンポからつくられた、子どものチャレンジ意欲を育むNPO法人

※2 通常の安全マップは子どもの危機回避能力の向上が目的だが、久米地区の場合いいところ、悪いところも、まちの個性として捉えみんまでまちを育てることを目的にしている。

音楽を通して住民との交流を

大洲市久米公民館

軽音楽サークル「おおずオールド・バンド」

バンドマスター 高橋 勲

一 発足と歩み

平成九年九月、当時やはり公民館活動の一環として取り組んでいた社会人吹奏楽団のメンバーのうち、五十歳以上の者九名が新たに軽音楽バンドを立ち上げました。

これは、吹奏楽団の若返りを図る意味もありましたが、何より、地域からの出演要請が多かったのが、大きな理由でした。

地域のお祭り等や、福祉施設からの出演依頼が寄せられました。これまでの吹奏楽団では、人数も多くて調整が困難なことが多々あり、動きやすい人数と、親しみやすい演奏曲をめざして編成をしたものでありました。

現在ではメンバーの年齢制限も無くし、幅広い年齢構成となりましたが、平均年齢六十一歳とかなり高齢です。

編成は、アルトサククス二、テナーサククス二、トランペット一、トロンボーン二、ピアノ一、ベース一、パーカッション二となっています。

当初の目的どおり、地域でのイベント参加、福祉施設等の慰問などを中心に演奏活動を行っています。

二 活動の内容

毎週月曜日（主に個人レッスン）と水曜日の夜、公民館に集まって練習を続けています。



演奏活動は、先に述べたように公民館祭りや敬老会などの地域のイベントのほか、福祉施設の慰問や行事への参加が主ですが（年七〜八回）、わけても敬老会への出演が一番多く、そこでの演奏はオールディーズ、つまり昔懐かしい曲が圧倒的に支持されます。ですから必然的にそういった曲が練習の中心を占めるようになって来ました。

いることがあります。それは、月に1回はレッスンの後必ず全員でミーティングを行うことです。そこでは誰もが自由に練習に対する意見など思いついたことを話し合いますが、みんなで楽しむためにはとても大切なことのように思います。

三 活動の楽しみ

私たちのバンドの特徴の一つに、演奏ジャンルの幅広さがあります。

ジャズから演歌まで、時にはクラシックや童謡も演奏します。これはメンバーの嗜好とも関係しますが、今まで自分の好きでなかった分野の音楽の新たな魅力が発見出来たりと



結構面白いものです。

もう一つの特徴として、編曲の独自性があります。これは、規制の楽譜に頼らず自らアレンジし、自分たちのバンドに合った楽譜とすることで、曲の自由度を高める楽しさがあります。

演奏の中心は、和洋を問わず昔懐かしい曲が多いのですが（これがバンド名の由来となっている）、最近出演の多い敬老会でのアトラクションで、参加者から「昔のことを思い出し、懐かしい気持ちにしてみました。ありがとうございます。」と、涙を浮かべて言ってもらった時などは、思わず感動し練習への意欲も高まりました。

練習は、単調に思えたり辛いと感じる時もありますが、やはりこうした感動や、うまく演奏できたときの喜び、そして仲間とのつながりはもとより、演奏等を通じて得た大勢の人たちとの交わりが、長年活動を続けられた大きな要因だろうと思います。

四 おわりに

公民館は地域文化の拠点と言われますが、とりわけ私たちのような音楽グループの活動には、とても貴重な存在です。音楽は当然ながら音が出ます。ましてや集団で音を出すとなると、周囲への影響もありますから、地域の理解無くしてはとも継続できません。こうした面での応援に対する感謝の気持ちも忘れず、更なる飛躍を目指して努力を重ねるつもりです。

平成二十六年 度

社会教育功労者

文部科学大臣表彰を受賞

(元) 愛媛県公民館連合会理事 永原 修氏

昨年十二月、元愛媛県公民館連合会理事永原修氏が、文部科学大臣表彰（社会教育功労者表彰）を受賞されました。

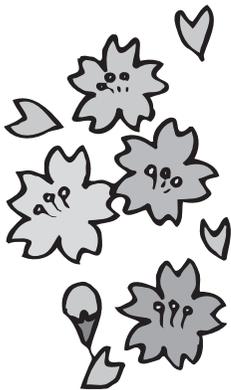
永原氏は、昭和六十三年度から平成十年度まで松山市三津浜公民館運営審議会委員及び松山市体育指導委員として、各種事業の企画・運営に携わり、特に、スポーツ等を通して地域の活性化に貢献されました。

また、平成十一年度からは三津浜公民館館長として、地域社会教育の活性化に務められるなど、地域住民からの厚い信頼をいただいております。

平成二十一年度以降は、松山市公民館連絡協議会副会長に就任されるとともに、県公連にあっても、平成二十一年度から四年間理事として、県内公民館活動の充実・発展にご尽力されました。

この度の文部科学大臣表彰は、その永年に亘るご功績が称えられたものであり、心からお祝いを申し上げます。

今後とも、益々ご壮健でご活躍され、ご指導いただきますようお願い申し上げます。



優良グループ紹介

澄んだ空気自然豊かな山里であじさいを

四国中央市嶺南公民館 嶺南あじさい会 会長 岩崎 健寛

四国中央市の嶺南地域は、市内中心部から国道三一九号を利用して車で約二十分のところにあり、四季折々の豊かな自然に囲まれた地域です。山紫水明に富んだ金砂・富郷は平家落人の里でもあります。

私たち嶺南あじさい会は、嶺南の自然を育み地域の活性化につなげようと、法皇トンネル南口より別子までの道路沿線（十五km）などにあじさいを植える活動を始めたことがきっかけとなり、平成九年七月に地域住民有志により設立され、現在は会員七十名で活動しているボランティア団体です。現在、約三万本のあじさいが植えられています。

活動内容は、あじさいの育成はもちろんのこと、国道や県道などの草刈り・清掃作業を行っております。

嶺南地域は、金砂町と富郷町から構成される人口約二百二十名の山里です。林業や農業を主たる産業としておりますが、どの地区も高齢化が進む状況となっております。嶺南あじさい会は、こうした過疎化が進む現状をなんとかしたいと想い、嶺南公民館や地域内の婦人会、嶺南スポーツ協会、嶺南地区社会福祉協議会、地区交通安全協会、木工愛好会等の様々な団体とそれぞれの立場から協力し合いながら活動を進めています。

また、あじさいが見頃となる毎年六月下旬

には、富郷町の下長瀬あじさい公園にて、嶺南あじさい観賞会を開催しているほか、夏の湖水まつり、てらの湖畔広場感謝祭等の嶺南地域の様々なイベントに参加しております。主な活動への参加内容

① 嶺南あじさい祭り

毎年六月下旬に開催しております。今年度は六月二十九日に富郷町下長瀬あじさい公園で開催しました。今年度で十七回目を迎え、



天候にも恵まれた結果約三千五百人以上の観光客に來場頂きました。

内容としては、ちびっこ舞踊やよさこい踊り、カラオケ大会等があり、またバザーではあめごの塩焼き・よもぎだんご・鹿肉のくんせい・木工製品等となっており、昔なつかしい山里の味を十分に楽しめるものとなっております。

地域の初夏の風物詩として定着してきておりますが、地域の代表となる祭りへと進めて行きたいとの想いです。

② 湖水まつり

先駆者の不断の努力により銅山川疎水が実現し地場産業が飛躍的に伸展を遂げ四国中央



市の大変貴重な水源になっており、感謝の気持ちの醸成と嶺南地域の活性化の一助となるよう湖水まつりを実施しています。

金砂湖から打ちあがる花火の美しさはきつと淡い夏の思い出になることでしょう。

各種バザー・花火大会・カラオケ大会・クラシック演奏等。

③ てらの湖畔広場感謝祭

行こう！食べよう！楽しもう！をキャッチフレーズに富郷ダム周辺のてらの湖畔広場で感謝祭を開催しています。魚のつかみ取り大会や音楽ライブが行なわれ、嶺南あじさい会もいのししバーベキューや鳥肉のからあげの店を出店して好評を得ています。



④ 研修旅行

あじさい会では、二年に一度、主に四国内の村おこしで有名な地域がある場所に会員同士の親睦を兼ねて研修に出掛けています。これまで小豆島や足摺黒潮市場等を視察し、大好きなお酒を少しだけ嗜みながらですが研修に励んでおります。

このように今までこうして楽しく活動を続けてこられたのは、多くのボランティア仲間や地域の人々の多大な支えがあったからだと思ひ深く感謝しております。地域の人々の笑顔に支えられ、山里の活性化になればとの想いを持ち、明日の希望にしたいと思ひます。最後になりましたが、通称あじさいロードでは、六月、私たちが丹精込めて育てたあじさいが皆さんの目を楽しませてくれます。色とりどりのあじさいをご覧に四国中央市の嶺南地域へぜひお越しいただければと思います。



お山の学校ながた

内子町内子東自治センター 館長 稲葉 勉

内子東自治センター管内の「長田自治会」及び「長田まめなぎ会」を紹介します。

長田地区は、小田川・中山川に挟まれた山間部に位置し、かつては葉たばこやシイタケ栽培、また林業で生計を立ててきた農林業地域でしたが、耕作に適した農地は少なく、少子高齢化が激増する現在では、世帯六〇戸・人口二二〇人・高齢化率四八%となっています。

平成二年度に新築された長田小学校は、木造瓦葺二階建ての校舎として建てられました。が、過疎化・少子化の大きな波に押されて、平成十六年三月には、住民に惜しまれながらも閉校となりました。その後は、自治会館として利用され、平成十四年度からは、ふれあいいきいきサロン事業の一環として、毎月一回「お山の喫茶店」が高齢者の食事、地域コミュニティの提供の場となりました。また自治会活動の一環として手づくりで、ピザ釜・屋外用囲炉裏を整備し、さらに平成二十一年度には、町の地域づくり補助事業で五右衛門風呂を設置しました。これらハード関連の整備が進む中で、地域のふれあい、都市住民との交流を目的に「長田・食の文化祭」が開催されるなど地域活性化の取組運が少しずつ高まってきました。

その結果、地域外から長田を訪れる人たちが

も増えて、「木の香りが残る学校をぜひ有効に活用してほしい」との声をいただき、自治会役員を中心とした「旧校舎活用検討会」を組織し、検討を重ねて再利用の計画書を取り纏めました。この計画書は、旧長田小学校の木造校舎を活かし、また高齢化の進む地域で、新しいイターンの家族を含めた地域振興、地域活性化の中心施設として、校舎を新しく蘇らせるための計画です。基本的理念として、

- ①出来るだけ現況（木造校舎）の良さを残すこと。
 - ②住民の過度な負担にならないこと。
 - ③長田独自のカラーを出すこと。
 - ④自治会館を併用し、地元住民も利用し易くすること
- し、平成二十四年七月に田舎体験宿泊施設「お山の学校ながた」をオープンさせました。

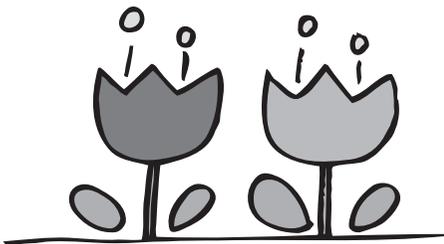
施設の運営は、長田地区の有志グループ「長田まめなぎ会」が指定管理者となって担っています。「まめなぎ」とは地域の地名で、親しみを込めその地名を団体名にしています。当施設の特徴ですが、なんとと言っても自然です。朝霧の峰々、満天の星空の下で、木造校舎の木の温もりや温かい里山の人々との出会いに、田舎料理と五右衛門風呂で癒やしていただきたいと思います。

今一番利用いただいているのが、保育園児の「お泊り保育」です。海や川では園児の事故が心配なので、お泊り保育の場所を探して

いたが、お山の学校ながたには、グラウンドもあるし、どんなに騒いでも近所迷惑にならないので、園児を思いっきり遊ばせることができます。と先生方には大変喜んでいただいています。園児たちが元氣よく走り回る姿を見るたびに、住民は宿泊交流施設にして本当によかったと再確認しています。

今後は、うどん・こんにゃく・豆腐づくりなどの農業体験を核にしながら、農業研修生・大学生の受入れにも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

皆様もぜひ一度、宿泊・農業体験においでください。



館長さんこんにちは

西条市中川公民館

佐伯 武男館長さんにご質問

西条市中川公民館

主任主事 永井 勝也

質問一 中川地区はどのようなところですか。

西条市の西部に位置し、地域の中央を東西に中山川が流れ五橋で繋がり、川の南に国道十一号が走っています。松山より桜三里を東に下り切った所から地域が始まり、中山川を挟み南北七つの自治会で成り立っています。中川は戸数千七十六戸、人口二千四百九十一人で地域には保育所、小学校、中学校が一カ所づつあり、それぞれ生徒数が百五名、百二十五名、五十名となっています。

水田は米を中心に、夏秋キュウリ。一部で里芋、イチゴの栽培をし、畑は蜜柑を中心に、愛宕柿、キウイフルーツ等が栽培されています。

地区内には「伊予の青の洞門」として讃えられている市指定文化財「劈巖透水路」とその記念碑や「中山川溪谷」、県指定天然記念物の「衝上断層」また「志河川ダム」等をウォーキングコースとして廻ることのできる田園風景の素晴らしい豊かな地区であります。

質問二 中川公民館の活動は

私達公民館職員は昨年七月より館長と主任主事が着任。嘱託主事は今年四月からと全て中川公民館の業務は初めての者達で、運営をしています。

サークル活動は月一回から数回で開催され、手芸三サークル、健康面ではヨガを含め二サークル、料理五サークル、音楽・舞踊四サークル、スポーツクラブ六サークル、子育て支援一サークル。教養部門四サークルでその内書きかた教室は今年より新たに始めました。他にも男性の料理教室は年四回、こけ玉作り、園芸科学科の高校生を迎えての寄せ植え教室、PTA教室を含め子供教室（婦人会応援の子どもちつき大会等）。スポーツ面では、

レクバレー大会において十八チーム百七十余名が集まりました。さらに各団体等との共催により、交通安全教室、防犯教室、その他講演会や健康体操等が取組まれ、多くの方が集まっています。

秋には小・中学校の運動会が行われますが、四月には地区の市民運動会があり約七百人が参加します。

また、夏祭り（盆踊り大会）においては九百余名が夏の夜を楽しみました。

二月の地区文化祭では保育園児や小・中学生、老人福祉団体等多くの団体及び個人の作品が並び、各団体の趣向をこらしたバザー（屋台）もたくさん出店されました。芸能発表部門も活発に行われ、千人を超える人出で賑わいました。地区こぞって参加して頂き、盛大に開催することが出来ました。地区住民のご協力に、日々助けられ色々な活動をしています。





質問三 今後の課題

私たちの地域では六十五歳以上の方が三九%以上になりました。市の十周年記念で二百五十名余りのグラウンドゴルフ愛好者が集いました。私のこの地区にも愛好者を募り、健康運動の一つにしたいと思います。

また、文化歴史についても子供達を含め、次世代の方々に引き継いで頂き、今までの絆をさらに強め生涯学習を進めながら、新しい声も開拓し、価値観を高め地域おこし町おこしへと、つなげて行く事ができればと思っています。



久万高原町公民館明神分館 坂本 好直館長さんにご質問

久万高原町中央公民館

主事 石丸 寛 人



久万高原町公民館
明神分館
坂本 好直 館長

質問一 はじめに自己紹介をお願いします。

平成二十年三月、高知市で単身赴任での公務員生活最後の勤務を終え、家族の待つ・



出身地の久万高原町明神地域に帰ってきました。帰郷した年の四月に町体育協会副会長に選任され、以前から携わってきた体育協会陸上競技協会会長と併せて体育協会のお世話をしながら、農業を営んでおりました。

平成二十二年二月頃に分館長就任の要請があり、当初は体育協会と公民館の活動が競合する場面があると固くお断りしたのですが、四月に分館長に選ばれてしまいました。県外勤務が長く、地域のお世事も十分にして来なかったので少しは恩返しをとお引き受けし、五年目を迎えております。

現在は、分館長、体育協会陸上競技協会会長のほかに体育協会の会長に選任され、微力ながら頑張っております。

職業は自称農業（主に米作り）ですが、年金生活者のほうが正しいかも。趣味はジョギング、登山、釣りなどアウトドアスポーツを楽しんでいます。

質問二 明神分館ではどのような活動を行っていますか。

当分館は、三坂道路のトンネル出口付近から南北方向に臨む中山間地に位置し、人口七百三十人ほどの小さな地域にある分館で、自治会や各種団体、学校の代表者で構成する運営委員会を中心に様々な活動に取り組んでいます。

まず、四月には双葉ヶ丘（明神小学校）の見事な桜を愛でる観桜会を実施した後、二十九日に恒例の地区敬老会を開催します。今年で、なんと百十六回目を迎えた伝統行事です。歌や踊りを楽しんでいたいたり、酒を酌み

交わしたりと、地域をあげて敬老者を祝い、楽しいひと時を過ごしていただいています。

八月十五日は、双葉ヶ丘で盆踊り大会を開催します。運営委員手作りの餅による景品付き餅まきや出店などで、お盆で帰省した懐かしい顔にも出会える夏の夜を楽しんでいただいています。特に今年は、地域の寄付金をもとに、初めて打ち上げ花火大会を実施しました。実り始めた久万清流米の稲穂が、花火に映し出され幻想的な雰囲気味わいました。

もう一つの新しい取り組みとして、十一月に公民館、明神小学校の保護者、児童、先生方など参加のもと、地域内にそびえる「桂ヶ森」・「見附岳」の日帰り登山を実施しました。「見附岳」に関わる伝説なども勉強し、大変好評でした。なお、事前作業として町内登山愛好グループ「久万高原遊山会」(ホームページ参照)の協力のもと、登山道の整備や案内板の設置を行い、これを機会に多くの皆様に親しんで頂ければと願っています。

冬場の行事としては、十二月に寒風の中、双葉ヶ丘の桜の手入れを実施します。百年を超えるソメイヨシノの老木などのテングス病やウメノキゴケの除去作業などを行い、地域の宝を大切に守り育てています。そのほか、一月に地域の皆さんの一年間の無病息災を願って、どんど焼きを開催し、地域の文化を継承しています。雪を踏みしめながら食べられるおしるこや甘酒の温かさは格別です。また、二月には公民館まつりを開催し、明神万歳や舞踊、子供たちの元気な歌声、時には地元劇団による演劇などで、寒さ厳しい冬場の一

を楽しんで過ごしています。

質問三 明神分館の課題や今後の目標について教えてください。

明神地域では中山間地特有である人口減少、高齢化が年々進んでおり、小学校の運動会も地域の運動会と合同で開催するなど、工夫を

元気な主事さん

ふれあい

新居浜市立金栄公民館

主事 高津 いづみ

金栄公民館は、昭和五十六年に設立され、地域住民への情報の発信基地として、また地域の『生涯学習及び家庭教育支援の拠点として、さらには体験交流の場として幅広く利用されています。金栄校区は、「向こう三軒両隣金栄はひとつ」を合言葉に、『ふれあい』を大きなテーマとしています。公民館報も『ふれあい』、高齢者デイサービスも『ふれあいの家』、ドリームツリー点灯式も『ふれあい広場』と名付けて校区住民に親しまれています。

私の父は、退職後の三年間公民館主事をしていました。そんな父の影響もあり、公民館主事となって丸二年がたとうとしています。

凝らしながら取り組んでいます。

今後も公民館活動とおして、壮年会や婦人会、青年団、老人会、学校など関係する団体と協力して、明るく元気な明神地域を目指していきたいと考えております。

就任一年目はあつという間に過ぎ、4大行事と言われていた「運動会」・「盆踊り」・「文化祭」・「ドリームツリー金栄ふれあい広場」はなんとか盛況のうちに終了したものの、あまりの忙しさに実はほとんど記憶にありません。周囲の助けのお蔭でやっとここまでくることができました。

主事の仕事にも地域にもだいぶ慣れてきた二年目の秋、我が公民館の行事に『ふれあい』がまたひとつ加わりました。新居浜市の交付金を活用した初めての事業『金栄ふれあいランド』わくわくキッズ王国・ふるさと青空マールシェです。このイベントは子どもからお年寄りまで、地域住民がみんな笑顔になるようにという想いが込められています。計画から実施まで約半年。実行委員会を立ち上げ、たくさんの方々協力していただきました。『わくわくキッズ王国』はその名のとおり、子どもたちがわくわくするような世界観がテーマです。「幼児や小学生が瞳を輝かせるような特別な空間を作りたい！」そう考えた



私達は、工作をメインに昔の遊びやシャボン玉遊び、バルーンアートやポン菓子・おにぎり作りを企画しました。万華鏡や置時計、貯金箱やビーズブレスレット等のキットを用意し、昔の遊びは、けん玉の達人にボランテイアで来ていただきました。ヨーヨーやコマ、竹とんぼは自分で色が塗れるものを用意しました。また、ポン菓子は製造風景を子ども達に見せたいと地域の方が協力してくれました。おにぎり作りは、三十キロを超える米を炊き型を使って子どもたちが自分達の手で作りました。

『ふるさと青空マルシェ』のイメージは大人が楽しめる空間。青空の下、校区の方が心を込めて育てた野菜や手作り品等の直売を実施

施することになりました。

翌日に文化祭を控えた十一月八日、ついに当日を迎えました。公民館周辺にはのぼり旗、入口には来場者を迎える大きなゲートを設置。駐車場をフルに使い、テントを張り、万国旗を飾り、机にはテーブルクロスをかけてそれらしい雰囲気演出。それぞれのコーナーがわかりやすいようにPOPも作成しました。地域の方の協力のもと盛大なオープニングセレモニーから始まりました。来賓をお迎えし、実行委員、来場した子どもたちでテープカット及びくす玉開披を行いました。ファンファーレが鳴り響き、くす玉がわれた瞬間、「わあ！」と歓声が上がりました。司会をさせていただきながら、「やつとこまできたー」という安堵感と想像以上のセレモニーの出来栄えに感激し、胸がいつぱいになりました。いよいよ大イベントのスタートです。私は、翌日の文化祭で館内に展示することになったいた写真を撮りました。夢中で工作をする子どもたちや、バルーンアートに見とれる子どもたち、おにぎりを美味しそうにほおばる子どもたち…。そこにはたくさんの笑顔がありました。『ふるさと青空マルシェ』ももちろん大盛況でした。里芋や小松菜、さつまいも、ねぎ等の獲れたて新鮮野菜がズラリ。パンジーやサクラソウといった花の苗も加わりました。また、手作り品のコーナーには、着物の生地で編んだ座布団や毛糸のマフラー、スヌード、木のおもちゃや人形、オシヤレなパンまで並びました。そしてもうひとつの目玉企画が有志団体による「餅つき」です。

威勢のよい掛け声と列に並ぶ人たちがより一層その場を盛り上げてくれました。そしてそこは公民館とは思えない特別な空間になりました。

こうした校区の皆さんの協力のお蔭で、『金栄ふれあいランド』わくわくキッズ王国・ふるさと青空マルシェ』は無事終了しました。それから私たちはすぐに翌日の文化祭の準備に取り掛かったのです。

私にとってここ金栄公民館は、自分を成長させてくれる大切な場所です。地域との関わりはもちろん、他校区の先輩職員や市役所との繋がり等日々勉強になることばかりです。最初は地域に受け入れられるか不安でしたが、今は地域の皆さんと共に『ふれあい』を大切にしながら公民館活動を行っていただければと思っています。金栄公民館がもっとたくさんの人に愛される場になるよう、今後も微力ながらそのお手伝いをさせていただこうと思います。

緑地域自主防災・減災

訓練を実施しました

愛南町緑公民館兼僧都公民館

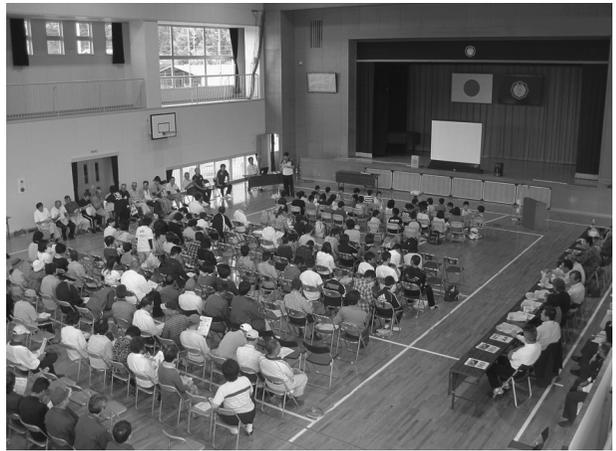
主事 飯田英功

平成二十四年四月に公民館主事を仰せつかってから早くも三年が経とうとしています。この度、伊予路の元気な主事さんコーナーの原稿依頼をいただきましたので、緑公民館

区で実施した特徴的な事業の一つをご紹介させていただきます。私の「元氣さ」は秘密です。

平成二十五年秋、緑地域（十二行政区）は、愛南町防災教育連携協力協議会（愛南町、愛南町教育委員会、愛媛大学防災情報研究センター、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所）から、地域防災教育支援研究プロジェクト（文部科学省）の地域指定を受けました。「多世代にわたる継続的な学校教育・社会教育双方の防災教育と地域防災活動の活性化を目的とする」この事業は、そもそも、愛南町防災教育連携協力協議会が平成二十一年三月の設立と同時に掲げた「地域に密着し機能する持続可能な防災地域社会システム（防災文化）の創造」という壮大なテーマを具現化し推進するための方策として、町においては防災対策課、町教育委員会においては生涯学習課及び学校教育課が連携・協力する大規模なものとなりました。

この事業、何せ「研究プロジェクト」ですから、「コミュニティ内のリスクセンスの分布と自己の位置を知ることと心理的な「共有」と「納得」を得ることを目的とした防災意識調査とリスクセンス調査によるリスクセンスの変化測定」???をはじめ、緑地域に課せられた事業実施項目は非常に難しく多岐にわたるのですが、その上に、緑地域自主防災会長（緑地域地区長会長）の強い思い入れの中、「緑地域自主防災・減災訓練を自主防災会主体事業として実施すること」となりました。緑地域自主防災会は、平成二十年三月に結成はしたもののこれといった活動がで



会場の様子

きていなかっただけでなく、氏曰く「今回の地域指定は、正に渡りに船」。しかし、当然ではあります。期日、訓練種目の決定から関係機関との連絡調整等、そのほとんどを自主防災会で行なわなければならず、また、予算面でも自主財源をもって賄う必要がありました。地域での自発的、主体的な取り組みとして、いい訓練になるのであるという予感を持ちました。

訓練期日を平成二十六年十月五日（日）、訓練種目を避難訓練、非常食配付訓練、防災・減災学習会、実働訓練と決め、自主防災会としてのメーンを、直観的な視覚効果が期待できるGoogle Earth上の「緑地域総合ハザード



緑地域総合ハザードマップ発表

ドマップ発表」としました。具体的な作業としては、急傾斜地崩壊危険箇所、土石流危険溪流、土砂災害警戒区域・特別警戒区域、ダム・ため池決壊浸水域、津波浸水域と、県、町が保有するハザードデータの提供を計四回の学習会を経て受け、変換の後、緑公民館、緑小学校、十二ある集会所のフラグを追加しGoogle Earthに搭載しましたが、この一連の作業は、単なるGoogle Earth用データの変換に止まらず、「ハザード（災害危険要因）情報」を地域住民それぞれの実生活に沿った「リスク（災害危険要因）によって被災する確率と程度」情報に翻訳した作業とも言え、今後展開する地域防災・減災活動の基礎とな

るものに仕上がったと自負しています。

訓練当日は、接近する台風十八号の影響が懸念されましたが、少しの雨が降る程度でしたので、総勢約二百名もの参加を得て実施することができました。自主防災会としてのメインと掲げた「緑地域総合ハザードマップ発表」に対しては、食い入るように、スクリーンに映し出された Google Earth 上の「ハザード情報」を、目論見通り、自分自身の「リスク情報」として捉えようとしている多くの参加者の姿がとても印象的でしたし、何よりの収穫は、緑小学校児童と緑地域出身の中学生の参加が、彼らの親世代とその親世代の参加の導線となり、多くの世代が緑地域を取り巻く現実を知り、自主防災・減災活動の必要性を合意・共有できたことではないかと思われ

ます。冒頭でも書きましたが、この事業は「多世代にわたる継続的な学校教育・社会教育双方の防災教育と地域防災活動の活性化を目的とする」ものです。防災を教育委員会が？、社会教育が？、公民館が？と思う方もたくさんいらっしゃるでしょうが、公民館が地域に根ざした社会教育の場であるならば、やはりこれは、新たな社会教育メニューとして捉え、地域に対して強力に実践すべきものであると確信しています。

都市公連だより

地域とつながる喜び

〜かみゆげ小さな文化祭〜

越智郡公民館連絡協議会

事務局長 中西 智恵

越智郡上島町は平成十六年に旧生名村、岩城村、魚島村、弓削町の一町三村が合併し、昨年十周年を迎えました。人口七千三百九十九人、四千五十八世帯、高齢化率四二・三％となっており、少子高齢化はどんどん進んでいるのが現状です。

公民館は生名、魚島、弓削地区で四公民館が設置されていますが、残念なことに、合併時は館長、主事ともに常駐していた館も全て無人館となっています。

しかし、地域づくり・人づくりの拠点は公民館であるという思いのもと、社会教育担当者らが館長、主事を兼務し、地域に根付いた公民館活動を進めています。その中で、今回は今年度二回目を迎えた「かみゆげ小さな文化祭」についてご紹介したいと思います。

この文化祭は、上弓削公民館を会場に、昨年、地区の有志が「この小さな上弓削地区でもお年寄りから子どもたちまで、みんなが集まれる場をつくりたい」という思いで立ち上げたイベントです。第一回は公民館を会場と

して使用しましたが、直接的なかかわりはありませんでした。

今年度は、文化祭において、子ども体験教室として「しめ縄づくり」を開催することとなり、広報や人集めなど公民館として役に立っていることがあると思います、地域を盛り上げるお手伝いをさせていただくことになりました。

地域の方との打合せに始まり、一緒に会場をレイアウトしたり、チラシを作製したりする作業の中で、最初は少し戸惑いもありましたが、地域の方々との距離もだんだんと近くなり、いろいろな人と話をする機会ができて、その中でこういう地域であってほしいという思いも聞け、公民館主事としてたくさんの収





穫がありました。

また、当日の「しめ縄づくり」教室では、地区の高齢者の方に先生になっていただきました。最初はうまくできなかったしめ縄も、優しく丁寧に教えていただき、最後には上手に仕上げることができました。普段なかなか関わることもない世代の交流は、子どもにとっても高齢者の方にとっても素晴らしい体験になったようです。「子どもの声が聞けることが何よりうれしい」と言っていたのが印象的でした。

この文化祭を通して、あらためて公民館が地域づくりの拠点であることを実感しました。何より、地域の人とつながれた喜びが、



出発式



ゴール



“ゴール” みんなよくがんばりました

旧瀬戸町・旧三崎町が合併し、新町となった西宇和郡公民館連絡協議会

・伊方町中央公民館

主任 篠澤隆之

佐田岬13里見て歩き

これからの活動へのさらなる原動力となることを感じました。
上島町には、まだまだ人と人との温かいつながりがあります。公民館主事として、小さな島だから出来ること、ここでしか出来ないことを続けていきたいと思えます。そして、地域の人の心に寄り添える公民館活動を進めていきたいと思っています。

伊方町だけの郡公連となっております。各地域には、公民館が四館と分館が三館あり、各公民館単位で実施している地域事業の他、全公民館が主体となって「佐田岬13里見て歩き」を実施しています。

この事業は、伊方地域から三崎地域までの道のりを二日間かけて三地域（伊方・瀬戸・三崎）の友達と一緒に歩き、苦しさを乗り越えながら交流を深め、ふるさと佐田岬半島の自然や文化に触れてもらうことを目的に実施しています。今年度は、伊方地域の中央公民館を出発し、ゴールの三崎総合体育館を目指しました。途中のチェックポイントを通過しながら、全員ゴールすることができました。この事業には毎年、三崎高校と川之石高校から参加希望者を募りボランティアスタッフとして協力してもらい、児童との年齢を超えた

交流もできています。また、次年度以降もこの事業を実施する予定としております。

開催内容

主催 中央、町見、瀬戸、三崎公民館
日程 平成二十六年八月十八(月)・十九日(火)

行程

中央公民館～瀬戸町民センター泊～三崎総合体育館ウォーキング…約三十六km

対象者

町内の小学四年生～六年生
参加料 二千円



宿泊の準備

第26回 全国公民館セミナー レポート 全国公民館セミナーに参加して！

伊予市中山地区公民館 主査 川本英人

第二十六回全国公民館セミナーが、「これからの公民館の役割と課題」をテーマに開催されました。

公民館の施設・組織・人材が、人口減少と現在の多様な社会の中で、どのように住民のニーズに対応していくべきか、少子高齢化やグローバル化など現代日本の抱える課題を照らし研修を受けさせていただきました。

初日は、関東圏では知らない人はいない全国公民館連合会理事でフリーアナウンサーの村松真貴子さんをファシリテーターとし、様々な立場のゲストからご発言をいただきました。始めに東京大学で社会教育など幅広く研究をされている牧野篤教授からは、「社会をつくる基盤としての公民館」をテーマに、これから訪れる日本の人口・経済・社会構造など今と将来なるであろう状況を示していただき、その中で公民館の組織がどのように関わり、社会の一躍を担っていくかご教示いただきました。先進事例として長野県飯田市や高根県隠岐郡海士町の取組を紹介していただき、地域の課題を住民自らが解決していく、そのためには課題を洗い出して地域住民の間で共有し、課題解決に向けてどのように取り組んでいくか、公民館がその場を提供し黒子として関わっていくことの必要性を学ばさせ

ていただきました。

文科省社会教育課長の谷合俊一課長からは、社会教育については全体的に予算や人員の削減、組織再編が進んでおり、恵まれた現場ではないけれども地域課題解決に向けて公民館運営を行っていただきたいとお話しから、文科省で行っている政策についてご紹介がありました。

また、大槌町教育委員会生涯学習課長の佐々木健氏は、東北大震災の実体験を経験し、消えることのない震災の大きな傷を日々感じながら、公民館が復興に向けての大きな鍵を握っていることを示していただきました。震災後、社会教育が行政組織の崩壊で行うことが出来ていなかったが、避難所や仮設住宅などでお互いが理解し合い復興に向けて協力をしていく、そのことが公民館そのものではないか、学びや協働の場として役割を果たしてきた公民館の大切さを再認識させていただきました。

シンポジウムの最後には牧野氏のゼミが学生と共に取り組んでいる活動を、所属する学生から報告がありました。報告では、地域の公民館に向き共に地域の課題を話し合うという活動を通じて、公民館がどうあるべきか学生の視点からこれからの公民館に必要な要

素を教えて頂きました。

初日の最後は、ファシリテーター松村氏のお話で締めくくりりましたが、その中でアナウンサーだから気づくことができる、話すことの大切さや意味を教えて頂きました。

二日目は、午前がワークショップで午後が分科会というメニューでした。ワークショップでは、ファシリテーターを朱膳寺宏一氏が務め、社会教育法や公民館運営について討議を行いました。討議は六人が一テーブルで行い、各地域の公民館運営の特長と課題や社会教育法二十三条の解釈をケースバイケースで理解を深めさせていただきました。特に二十三条については、思った以上に住民の方に公民館を利用していただけることが分かり、これからの運営の大きな参考となりました。



午後の分科会では、私は第一分科会を選んだわけですが、テーマが「地域に開かれた公民館運営の在り方」ということで、牧野氏から飯田市や泰阜町の調査研究結果を掘り下げた形でお話を頂き、隠岐郡海士町の「隠岐島

前高校魅力化プロジェクト」取組事例からは、公民館が学びの場であり時代や地域に合ったコミュニケーションの場を提供していく必要があることを感じました。学びについては、公民館がカルチャースクール化していないか、地域公民館としての学びの場として、これからの地域課題を掘り起し解決に向けていく仕組みを構築する必要があるということでした。

また、分科会参加者から担当公民館の最近の取組を発表していただき、「公民館改革宣言」や「みんなでストレッッチ体操」など、私

の公民館でも真似をしてみました。

研修最終日、「事例研究」公民館GPの優れた実践から」をテーマに三つの発表がありました。余談ですが、GP(グッドプラクティス)の意味がこの時はじめてわかりました。秋田県の事例「高校生まちづくり会議(HACHI)の足跡」では、高校生が公民館の

支援者となり活動を支えていく素晴らしい内容の発表でした。発表後、高校生たちの活動に対する素直な感想を聞くことができ、初心に帰ることができました。

三発表とも特色ある地域に根差した素晴らしい内容でしたが、どの発表も共通する点は「地域公民館としての役割をアピールすること」と「支援者・利用者の掘り起し」を惜しまなく続けていくことではないかと感じました。

最後に、三日間の総評を牧野氏から頂き、参加者から研修に対する感想を発表し全日程を終了いたしました。

研修を終えて、期間中のプログラムも素晴らしい内容でしたが、多くの参加者と公民館の現状と課題など現場の声を直に聞くことで地域を超えた理解を深めることができ、これからの公民館活動の活力となりました。

【新しい公民館像を求めて～公民館の不易と流行～】

平成二十六年年度 愛媛県公民館研究大会 【記録】

会場 東温市中央公民館ほか

平成二十六年年度 愛媛県公民館研究大会（主催 愛媛県公民館連合会・愛媛県教育委員会）が、「新しい公民館像を求めて～公民館の不易と流行～」を大会主題として、十月八日（水）に東温市中央公民館ほかを会場に盛大に開催されました。

開会式には、中村時広知事（代理 仙波隆三愛媛県教育委員会教育長）、明比昭治愛媛県議会議長、高須賀功東温市長、土居英雄愛媛新聞社長（代理 久世健三地域読者局次長兼読者事業部長）ほか、多数のご来賓の方々のご臨席を賜りました。

大会の開会行事では、橋本英厚愛媛県公民館連合会長の開会あいさつ、来賓祝辞に続いて、各部門の表彰が行われました。



県教育長と県公連会長の連名表彰では、優良公民館十七館及び優良公民館職員十九名、県公連会長表彰では優良公民館二十二館、優良公民館職員五十名、優良自治公民館八館、優良団体・グループ十五団体、優良グループリーダー一名、優良協力者七名、県公連会長感謝状では、永年勤続公民館運営審議会委員二十四名、更に愛媛新聞社長・県公連会長の連名表彰では、館報コンクール入選十四館にそれぞれ表彰状・感謝状が授与されました。

開会行事に続いてのパネルディスカッションでは、コーディネー

ターを愛媛県公民館連合会専門委員会の寺澤房和委員長に、助言者を愛媛大学名誉教授で愛媛県公民館連合会専門委員会委員の讃岐幸治先生に務めていただきました。パネラーとしては新居浜市の関福生市民部長、西予市狩江青年会佐藤和文前会長、伊予市双海地区公民館赤石雅俊主任の三名の方々に登壇いただきましたが、大会主題と同じテーマで活発な意見交換をしていただきました。

午後からは、五つの会場に分かれて、分科会としては、分科会A「人権意識を育てる公民館活動」同B「地域の特色を活かしたプログラム開発」同C「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方」同D「学校支援活動や学社融合、また青少年の体験活動を推進する公民館活動」同E「家庭教育を支援する公民館活動」の五つのテーマで、各分科会とも熱心に討議が行われました。

以下、当日の分科会の記録に基づいて、その要旨を掲載します。

【分科会役員】

〈分科会A〉 テーマ「人権意識を育てる公民館活動」

- 運営責任者 県公連理事 菊川 世紀
- 会場責任者 東温市川内公民館副館長兼公民館係長 名越 利江
- 助言者 新居浜市立瀬戸会館館長 高津 章人
- 司会者 伊予市社会教育課課長補佐 安田 敦
- 発表者 大洲市今坊公民館主事 三谷 鈴美
- 今治市大三島公民館長 國貞 英三

〈分科会B〉 テーマ「地域の特色を活かしたプログラム開発」

- 運営責任者 県公連理事 楠 理恵
- 会場責任者 東温市中央公民館副館長兼公民館係長 重信 昭雄
- 助言者 松前町北公民館長 近藤 初美
- 司会者 西予市田之筋公民館主事 和田由美子
- 発表者 松山市粟井公民館長 西村 昌之
- 宇和島市立九島公民館主事 竹下 稔
- 西条市石根公民館主事 桃田 朋華
- 記録者 玉井 豊恵

〈分科会C〉 テーマ「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方」

運営責任者	県公連理事	徳田 勝英
会場責任者	東温市生涯学習課社会教育係長	渡部 俊也
助言者	宇和島市立三間公民館長	中矢 幸男
司会者	久万高原町公民館野尻分館長	森永 進
発表者	八幡浜市立川之石地区公民館主事 新居浜市立泉川公民館長	菊池 敏和 今西 光昭
記録者	砥部町中央公民館係長	林 明

〈分科会D〉 テーマ「学校支援活動や学社融合、また青少年の体験活動を推進する公民館活動」

運営責任者	県公連理事	林 栄作
会場責任者	東温市生涯学習課長補佐兼国体準備室長	森 誠司
助言者	伊方町生涯学習室社会教育指導員	長野 照道
司会者	上島町魚島公民館主事	中塚 雅士
発表者	松山市地域学習振興課主事 内子町大瀬自治センター係長	土井 宏 大田 陽市
記録者	大洲市上須戒公民館主事	上川 靖睦

〈分科会E〉 テーマ「家庭教育を支援する公民館活動」

運営責任者	県公連理事	池田 昭雄
会場責任者	東温市生涯学習課社会体育係長	水田 仁志
助言者	今治市立花カルチャーセンター館長	竹内 信子
司会者	愛南町東海公民館主事	山本 一久
発表者	四国中央市長津公民館長 伊予市中央公民館主査	高石 正広 野間 美幸
記録者	松野町中央公民館主事	榎谷 惇志

【分科会協議記録】

分科会 A 「人権意識を育てる公民館活動について」

1 発表要旨

○大洲市今坊公民館主事 三谷 鈴美

資料に基づき、下記項目を説明

- 1 はじめに（地域の概要）
 - 2 今坊公民館の主な活動内容
 - (1) 人権尊重の意識の高揚を図る活動
 - (2) 地域コミュニティ活動
 - (3) おわりに（今後の課題と取組）
- 今治市大三島公民館館長 國貞 英三
- 資料に基づき、下記項目を説明
- 1 はじめに（地域の概要）
 - 2 公民館活動について
 - (1) 人権の集い
 - (2) 広報誌人権シリーズ『みかんちゃん』
 - (3) 人権教育推進委員会
 - (4) 人権教育講演会
 - (5) 陶芸教室
 - 3 おわりに（今後の活動）

2 質疑応答

分科会 1

Q 西予市中央公民館社会教育指導員 宇都宮 和義
 ○今治市大三島公民館館長 國貞 英三さんに質問

三十年前と人権啓発活動は同じではないだろうかと言われているが、合併後のいろんな人権課題の人的な面、そして人権教育啓発の市としての成功性について、大三島・市独自の申し合わせはあるのか？西予市としても十年というところで模索しながらやっているが、その辺のところを館長さんのお立場でどういうふうにされているのかお聞きしたい。

A 今治市大三島公民館館長 國貞 英三

○この場では答えにくいですが、今治市で合併してどこも同じであると思うが、だんだん資金面も苦しくなってきたりする中で、大三島公民館としては（個人的な意見ですが）「他の公民館にはない、この事業だけは」ということを、予算のやれる範囲内でやるだけというふうに考えている。若い時のことを言って申し訳ないが、

職員それぞれの仕事の量について、公民館に籍を置いていて、地域教育課の仕事はかなり多いようだ。毎日何かしら事件が起こり、仕事もその量もかなりきつい。三十年前はもつとゆとりが職員の中にあつたのかなというのが正直な話である。昔は、うちの公民館の中に教育長室があり、教育長がかなり近いところだったので、とても話しやすい状況だったし、いい時代だったと思うが、今は一人ひとり背負っているものが多くなっているのかなというのが正直な感想である。

Q 西条市飯岡公民館長 藤田 正史

○大洲市今坊公民館主事 三谷 鈴美さんに質問

人権同和学習会をいろいろ実施されているが、その中でそれが主体で一番力を入れているのだろうか。それから、地区懇談会で平成十年から参加人数の推移はどうなっているのかお聞きしたい。また、主催者は公民館独自でやっているのか？人権講演とかビデオ等いろんなテーマでされていると思うが、これはそれぞれどういう形で進行されているのか。私の公民館は司会進行がいて、まとめる人がいて、助言者がいるという典型的な形でやっているが、どう意見交換をされているのか。最後に、マンネリ化や参加者の固定化の問題もあるが、今後の取り組みで若年層の取り込みをしたいと言われているが、具体的にはどういうふうに取り組もうと思われているのか。わかっていたら教えていただきたい。

A 大洲市今坊公民館主事 三谷 鈴美

○まず、どれに力を入れているかという質問については、年間を通して、公民館大会、友愛館大会、これは全部が講演や人権作品の発表なども人権一色でまる一日やるので、これが一番大きいかなと思う。みなさんがせっかくなので、これが一番大きいかな。場でも、子供たちが楽しみを取り入れながら人権を語っていくというやり方を行っている。

○また地区懇談会の人数の推移については、昨年度は六十九人だった。地区で百七十世帯あるが、大体全体の半分しかない。目標は各世帯一人ずつ出てもらいたいと思っている。主催は公民館です。友愛館も協賛ということをやっている。進行の仕方について

は、進行は主事がやり、地区別懇談会については形が決まっています。冒頭に館長のあいさつがあり、ビデオ視聴、市人権啓発指導員の話、その後話し合いをもらうまでしている。

○マンネリ化や若年層の取り込みについては、大三島でもそうだと思うが、高齢化の問題を抱えている。子供の数は、小学生が十一人、中学生が十三人ととても少ない。イベントの中では、小中学生はもちろん高校生にも声をかけたり、焼き肉をする時など小さい子を持つ保育所の親たちや幼稚園の子供たちにも声をかけるようにしている。

3 分科会テーマに対する協議 分科会2

○西予市中央公民館社会教育指導員 宇都宮 和義

自身も三十数年前に派遣ということで同和教育に関係させていただいた。今は社会教育指導員として公民館と連携しながら活動している。今後これからも公民館と隣保館の活動は連携すべきは連携していくべきであると思う。大三島の高校生が四コマイラストを書いていることは、本当に若年層の参加を促すことにつながるということを学ばせていただいた。特別教室で隣保館の講座の、一時間の中の十分間陶芸教室の前でとることで、取立てた時間をとるよりは、こういったちよつとした時間で、人権を身近に感じながら同和問題をはじめとする人権課題の解決に関心を持たせることが大事である。無関心が一番いけないということを学んだ。私も、地区懇談会には各一世帯一人出るようお願いしているが、できれば夫婦二人出てもらいたいと思っただけでも、どうしても回覧板の関係では家の主が出るようになっていて、男中心の会になってしまう。それをどう打破したらよいか悩んでいる。差別落書きがあつたが、その事例を基に一緒に考えていったらと思う。うの是非鍛えていただいたらと思う。

○司会者

人権教育の学習の場を提供するという意味で、今坊公民館の学級のおりに、一日移動学習でバスの中でのビデオ視聴することがよい。人権学習会をするよといった会では、なかなか参加者は少

ない。陶芸教室もそうだが、何かと交えながら人権学習の場を交えるのはよいことだ。伊予市でも地区懇談会での参加者の固定化、内容のマンネリ化という悩みの種はある。集落の例会と合わせてやるところが結構あり、時間は一時間におさめるようにしているが、時間的に長すぎるといふことがある。今はビデオ視聴をやつて社会教育指導員の講話の二本立てにしている。今年度は、若いお母さんにも来てほしいということで、ビデオを子供でも理解できるようなものを選んで、学校を通してお願いするようにしたら、親子での参加が増えた。また、子供を使つて人権の詩を読ませるなど、子供に発表させる場を持たせることもやっている。以上、(参考になるかわからないが)伊予市の取り組みを紹介した。

○今坊公民館 館長 久保 貴美男

若者の取り込みという質問があつたが、その取り込みの一つとして「獅子舞」をしている。小中高校生に出てきてもらつて(二十数名)、地域の若者とのつながりの中で、お祭りの行事がある。それを通して人権啓発をしている。特に、小中学校の人権作文の発表は非常にすばらしいと思うし、講師の浅田先生にも絶賛してもらつた。悩みとしては、少子高齢化で今は平均年齢が六十六歳になつてきている。そういう中でみんながやつていくことで「地域愛」を感じた。ふれあい祭りでの参加にしてもとても熱心である。今日は「不易と流行」というテーマであるが、みんなが出てくる場を作ることが大事。運動会やふれあい祭りなどいろいろな自分たちで楽しんで提案して作つていきたい。

○司会者

少子高齢化はどこでも進んでいる。限界集落も何個かある。公民館活動のマンネリ化しないようなイベントが、例えば二年に一回になったことなどの悩みも言つていただき、私自身も教えていただきたいと思う。…なかなか意見が出ないようなので、内容を变えて「水曜会」についてもっと詳しく内容を教えていただきたい。

○今治市大三島公民館長 國貞 英三

昔からあつたが、その起こりは地域の学校の先生が音頭をとつて、同和教育を推進していく先生が仲間を作り、住職さんが相談

しやすい立場なので、お寺に寄つて、最初は行政抜きで学校の先生と地元の人権対策の関係の方が一緒に、それまでは大洲市と同じように「地区懇談会の講師をどうするか、テーマを何にするか」など小学校が五つあつたのに、三十年ぐらい前に二校になつて一校にまできたが、五校あつたときは先生の人数もそろつていた。人権劇をする機会が年二回あつた。役場の職員なども手伝いや練習に行つたりしていた。今現在はメンバーの数も減つてしまつたので、過去にしていた人も学校が変わつても呼んでやっている。それでも七、八人いる現状である。

○西条市飯岡公民館館長 藤田 正史

まず西条市飯岡というところは、西条市の東部に位置しており、現在人口七千人で三千世帯あり、約千名が自治会に入っていない。高齢化率が二七%の町である。人権同和学習の中での地区懇談会は、主催は連合自治会で小地域懇談会となる。月一回開催して四日間、約四十九ある中で十五会場。連合自治会の役員や公民館職員、小中学校の先生方が地区に向いて会をしている。時期は九月十月に行う。啓発ビデオを視聴して先生の話、助言、結果発表までで一時間半の時間になる。今年三百五名の参加があつた。去年がおおよそ二百名でその前年が二百二十名でだんだん減つている。その歯止めをかけるために、隣に飯岡小学校があり、その五年生でハンセン氏病の取り組みを勉強し、それを地域の方々に発表してもらおう。みんなで懇談会したら去年と比べて百名増加した。小地域懇談会としては、年に一回人権の夕べとして、人権劇と講演会をやつていた。今は百名を切つている。これではいけないと思ひ、今年にはハンセン氏病の取り組みの発表会も公民館も一緒にやると、二百五十名くらいになつた。

公民館が人権の取り組みをやるのは難しい。それと合わせて地域のコミュニティや結び付きが非常に薄くなつてきている。地域の活性化も合わせて人権同和学習会もやつていかなきゃならない。マンネリ化や参加者の固定化を防ぐためにも、公民館自体が知恵を出し合つていろいろな人の意見も考えてやつていかなきゃならない。やっぱり差別や人権侵害の問題もあるので、公民館の一つの

仕事だろうと思っっているので、今後とも一生懸命やっていきたいと思っっている。

○大洲市菅田公民館館長 亀井 要

昨年台風が来なければ（県大会が中止にならないければ）前に出ないといけなかった。私が発表させていただいたのは、研修の場では「継続が重点である」ということである。内容は、学社連携や合同研修会、差別部落の人々の家で訪問現地研修。公民館行事と人権同和教育を発表させていただいた。昨年度の人権同和教育では、若い方が「結婚差別」について発表した。家族、地域の壁を乗り越えて、結婚していくという内容の発表で、感動した。人権教育で同和問題学習が薄くなってきたという声が出てきている。同和問題学習という点でもう一度見直していったらいいのではないか。

○司会者

研修なりしていく中で継続することがとても力となっている。大三島も三十年前からやってきている。訪問研修では、愛媛県内を中心として来年度から取り組もうと思っっていることである。中でも、「西山識字学級」や「高知のべこ人形」など廃れてきている問題。それを継続してやっていこうと思っっている。また、「高知の教科書無償運動」の問題について。憲法にもある、同和問題学習が元になって義務教育が無償となったことを、今の若い人は知らない。それで、リーダー研修でそういう場所に行った後の感想を文章にまとめている。

○司会者

先ほどのご意見にもあったように、人権同和教育では、小中学校での世代へ公民館の力が大切だと思っと思う。公民館、学校、地域、行政がみんなが輪になって進めていったらと思っと思う。

○新居浜市 瀬戸会館 館長 高津 章人

水曜会についてそれに関連してお話ししたい。新居浜市ですが、なぜ水曜会になったのか。思い起こすと、十七、八年前に大三島高校から新居浜へ来た若い元気な女の先生が来た。この方は水曜会におられた方である。その当時、親の木曜会があった。「もっ

4

指導・助言

新居浜市 瀬戸会館 館長 高津 章人

○実は、私は人権にかかわる一人として、今日は楽しみにしてきました。最初に簡単に自己紹介をしておくが、定年になって五年になり、地元の公民館に再就職した。今は瀬戸会館で、ここは新居浜に一つしかない隣保館である。まだ入ってから二年にもならないが、助言をさせていただきたい。人権意識を高める公民館活動として、人権意識の高揚を図る活動としていろいろなことをしているなあとと思っった。二つそれぞれ立場は違っっても、より住みやすい地域を作っっていく上では同じではないかと思っった。

○その中で今坊公民館の発表について感心したのは、隣保館である友愛館と一緒に各種の人権の取り組みをされて連携されているのが素晴らしい。これも長い間、地域に根付いていたからこそ出来ると思っと思う。今後も公民館と隣保館が連携の積み重ねを続けられるよう切に願っっている。人権集会のテーマが地域と一体になっていることの大切さが実感としてよくわかった。地区別懇談会では、それぞれの市・町・地域性によって形があるが、意見が言いやすく膝を交えた集会にするために、九つの行政区で単位されているが、私は小集団学習に勝るものはないと思っと思う。活発な意見が出なくてもいい。ほそほそでもいい。この参加者の「つぶやき」こそ大事である。それを主催者側がいかにか拾っっていくかが大事である。そして継続することの大切さを望みたいと思っ思う。それぞれの事業の中で、身近な人権擁護委員や民生委員を巧みに講師に招いていることによっって、穏やかな雰囲気の中での人権学習の場になると思っ思う。決まり決まった方の話よりずっと啓発の意味では効果があると思っ思う。

○次に大三島公民館については、学校教育、社会教育、水曜会それぞれで啓発活動を地域社会全体に紹介しておられることに感心させられた。事業の内容が良くても同じことを繰り返していると、ややもするとマンネリ化や参加者の固定化をしていることがよく聞かれることである。それぞれの活動を毎年少しずつ事業に変化を持たせることが大切だと思う。水曜会での参加者だけの学習会だけにとどまらず、人権劇や人権のつどいや人権講演会など自分たちの学んだことをそのままに終わっていない。その分地域に与える影響が大きい。一人でするよりみんなでする。私も館を預かる者として、広報誌に人権シリーズ「みかんちゃん」を登場させて、一人でも多くのみんなに読んでいただくために、いろいろな工夫をしていることに感銘を受けた。ふれあい学習では、陶芸教室の前段に身近な人権学習会を持っていることがよかった。出会い、ふれあいを豊かにすることで本当の姿が見えてくるように思う。

○最後になりますが、これまで同様に社会教育の中核を担う公民館は、人が人と出会い、つながって広がっていくことが大事だと思う。もう一つ、住民の声に耳を傾け、地域を主体とした地域づくりの気運を高めていってほしいと思う。この役割が今後ますます公民館の役割として大切になってくると思う。

○本日の発表にあつたように、今坊公民館が「ぬくもりのある地域づくり、心豊かで明るい活力ある地域づくり」、大三島公民館が「偏見や差別のない、誰もが幸せに生きていける町づくり」ということで、それぞれ取り組まれていることに安心安堵感を覚えた。私たち隣保館の取り組みも、共に生きるまちづくりである。これら目指すところ住みやすい、共に生きるところには、人権問題の垣根もなければ同和問題の垣根もない。偏見や差別もなくなった、誰もが安心して生きていける地域・町づくりになることは間違いないと思うことである。

分科会B 「地域の特色を活かしたプログラム開発について」

1 発表趣旨

○松山市粟井公民館 館長 竹下稔

「公民館だからできる地域の宝である子どもを健全に育成するプログラムの開発」

- (1) 粟井地区の概要
- (2) 子どもの健全育成に取り組んでいる活動と課題、そして打開策へ
- (3) スマイルタウン・スマイルカンパニーの説明
- (4) 新しい活動（プログラム）による成果・効果
- (5) 今後の課題
- (6) まとめ

○宇和島市九島公民館 主事 桃田朋華

「九島大橋と公民館の取組について」

- (1) 九島地域の概要
- (2) 九島公民館の主な行事・講座（平成二十五年度）
- (3) 九島大橋と地域の取組について
- (4) おわりに

2 質疑・応答

Q 西予市中央公民館 主事 光沖真治

○粟井公民館のスマイルカンパニーについて、対象の四・五・六年生は、どのような成長をしたのか、またどのようにして七年間続けることができたか、中高生がジュニアリーダーとして残ってもらうにはどうしたか。

A 発表者

○七年間続いたのはスタッフに恵まれたから。

○成長については、子ども同士の縦のつながりが横のつながりができて情報を共有している。

○ジュニアリーダーには楽しい思いを体験した子ども自身が進んで残ってくれている。大人ももちろん誘う。

Q 同

○もう一点、宇和島市の九島公民館で行っている夏休みの子供野外学習の内容と、島の子どもの達的人数について

A 発表者

○九島地域の現在の幼稚園児は十三名・小学生は二十一名。どんどん減ってきて来年度は三人入学となっている。今、一年生がいない状態。

○七月の子供野外研修は、二十五年度は愛南町の方に一泊二日で行った。スポーツ少年団を対象におこなっていたが、子どもも少なくなつて団体がなくなつてしまったので、今年度からは実施していない。

Q 今治市城東公民館 シルバークラブ会長 松尾薫

○粟井公民館のスマイルカンパニーに対する松山市からの助成金はあるのか。それとも独自の運営をおこなっているのか。

○スマイルカンパニーの子どもたちと同じ学校にあるスポーツ少年団なんかの関係はうまくいっているのか。

A 発表者

○松山市のオンリーワン事業から、いくらかこのふれあいマーケットに助成を受けている。それを資本金とし、以降はこのふれあいマーケットによる収入、出店料等でまかなっている。

○スポーツ少年団は粟井小学校でも盛んで、指導者もたくさんいる。スポーツ少年団の高学年は試合がとつてもなく多くあり、両方兼ねて活動できるというのは難しい。しかしスマイルカンパニーへ所属だけして行ける時行きたいという親の希望があった場合は認めている。来たときは皆と仲良くしよう、頑張ろう、という指導をしていて、門戸は広がっている。お互いどっちが大事かということとは子ども自身、そして親との相談、指導者とも相談しあつており、負担のないようにしなさいということを指導している。

Q 松山市桑原公民館 館長補佐 伊賀上邦夫

○七年の継続はすばらしい。ちよつとだけ思ったのは中学生が加わることもよつと中身が多様になってくるのではないか。

○高齢者の方にも同じように、この中に一緒にはいってお店を出してもらつてはどうか。子供たちはおとしよりから学んでいくことはたくさんあるかと思うが、そういった発想はあるか。

○社内報・ポスター・チラシの素晴らしいのを見せてもらった。これは子どもたちの手で、原稿をパソコンなんかでつくっている

のか。

A 発表者

○中学生の参加は呼びかけてはいるが、来てくれるのはいまだジュニアリーダーのみ。

○高齢者は出店している。例えば、はちうえ・毎月のおもてなしは婦人部の高齢者の方が色々つくつて協力くださっている。野菜も持つてきていただいている。

○チラシポスターは、全て大人のスタッフが作っている。決めるのは子供たちが決めているが、子どもたちにポスターも・・・というのはあまりにも時間がない。子供の字で書いたほうがすごく魅力があると思う。これからの参考にさせていただきたい。

3 分科会のテーマに対する研究協議

〔公民館の実践事例または取り組みについて等〕

今治市波止浜公民館 館長 鳳浩希

○スマイルタウンの立ち上げについてどういう方法で、このようなすばらしいプログラムを立ち上げることができたか。

松山市粟井公民館 館長 竹下稔

地域の中にはいろいろな団体がある。例えば自治会、町内会、それぞれ呼び名が違うが、社協・民生・健全育成もある。我々北条地区というのは愛護班がすごく活躍している。粟井には二十四の町内があり、それぞれその町内の愛護班長、副班長・地域の代表の方に集まっていたくと地域の代表だけでも三十人以上にはなる。そして学校は小学校中学校の校長先生・教頭先生・生徒指導の先生、四・五・六年生の担任の先生・PTA・七十名余りの方々に寄つていただいで一回目を開催した。一回目に寄つていただいた時に各学校、家庭・地域の代表者を決めた。二回目以降はその方々にその団体の代表の意見ということで意見をだしあつてもらうような企画会議を開いて連携を取っている。

八幡浜市立大島地区公民館 館長 兵藤勝男

○九島公民館の方におたずねしたい。婚活をどのようにに若者に呼びかけたか、計画したのか、立ち上げはどうか。

宇和島市立九島公民館 主事 桃田朋華

○男性を集めるのは、まわりも嫁不足で、親もだれかいけないかなあ
ということをちょこちょこ聞いていた。「地域づくり協議会」が
立ち上がった時に、婚活をやってみたらどうかという意見がで
た。女性の参加者を集めるについては、チラシはフリーペーパー
に載せた。フェイスブックでも募集をかけた。呼びかけというの
は特にしていない。担当の方が・・・。

九島地域づくり協議会 村上

○地域づくり協議会が立ち上がった同時に、婚活をやるうという話
になった。餅はもちやというところで宇和島市内のプライダール・
会社に相談をし、企業と我々と公民館の共同という形で一緒に盛
り上げよう。

女性が、例えば私の携帯番号にはかけにくい：プライダールプ
スを利用した。なるべく女性が参加しやすいような配慮をした。

大洲市新谷公民館 主事 佐々木康隆

○十月十八日十九日に「銀河鉄道999 始発駅新谷」まちおこ
しイベントを計画している。松本零士先生のご両親が大洲出身で、
そしてお母さんが新谷地区の出身。零士先生も小学校一年生当時、
新谷地区へ疎開されていた。もくもくと煙を吐く蒸気機関車を新
谷の自然の中で見たというこの記憶から、銀河鉄道999がうま
れたといわれている。

これを活用させていただいて、松本零士先生にも協力してい
たさいイベントを開催しようということになった。みなさん新谷へ
ぜひ・・・

松前町公民館運営審議会 委員 満田泰三

○みなさんの発表を聞いておって・・・現在の公民館事業のあり方を
心配している。みなさんの難儀話もあるのでは。

松山市粟井公民館 館長 竹下稔

○難儀している。しんどいしんどいと思ながら。スタッフの助けを
かり、どうにかやろうじゃないかという意欲の方を優先的に、自
分の気持ちを持ってやってやっている。

内子町五十崎自治センター 館長 上石富市

○ポスター・・・十月十八日に行われる「きらり・かいとまつり」に

ついで・・・

○それからスマイルカンパニー・・・地域通貨を交換するとき、環
境問題等にも・・・

西予市田之浜公民館 主事 中村光男

○平成二十五年九月に西予市全体が日本ジオパークに認定された。
西予市ではジオパークを広めるため様々な取組をおこなっている。
どの市町村にも見所や特色はある。このような地域の特色を活か
した活動を県下各市町村でおこなっていくと、公民館も盛り上が
るのではないかな。

○青年団・壮年団を立ち上げることはできたが、婦人会の方に受け
入れられなかった。婦人のグループの立ち上げについて、いい知
恵はないかな。

松山市粟井公民館 館長 竹下稔

○婦人の方それぞれ得意があり、うちの場合は料理、裁縫・小物な
どを作っている。そこにポイントを持っていき、ふれあいマーケッ
トへの出店を促し、先ずできてもらうことを最初にやった。そ
してグループができた。いろんなグループづくり、ふれあいマー
ケットの中で婦人部の部門をつくった。焦らずに段階をふんで行
えばできる。

九島地域づくり協議会 村上

○地域住民主体で事業を取り組んでいるがなかなか難しい。あて職
ではなかなか・・・

地域に対する思いがないと・・・地域のなかには必ず得意分野を
もったひとがおり、そういう人の助けを借りて、おこなっている。

松前町公民館運営審議会 委員 満田泰三

○国の方針でもある地域創生。新しい地域創生事業は、地域に合っ
たアイデアがある。そのアイデアは公民館でほしい・・・三
年後には国体もある。公民館活動で何をするかこれから考えて行
く必要があると私は思う。

4 指導・助言

松前町北公民館 館長 和田由美子

○難儀になったとききつと課題が生まれている。

○粟井公民館の議論に焦点を当ててみた。立場と役割に・・みんなが時間を共有することで狙いが見えてきた。その時間がなかったらだれか一人の思いだけで突っ走っている。

議論が共通認識・共通課題をみつければ共通の・・未来を担う子ども。どういふ子どもを社会に送りだしていけるかというのは、社会教育の役目だと思う。

○九島の嫁不足・・そこに目をつけて婚活。橋のできる今この企画は九島に明るい展望があると思う。

○二つとも未来を見据えたプログラム。課題にも特性があり、その課題をふまえて持ち味を生かす工夫がされている。

○おでんも具と出汁があっっておでん鍋になるように、人・物・事・金(食べ物に置き換えれば具)を使って地域づくりをする(出汁)のが公民館だと思っている。

○大根は、お米をあらったあの汁でゆでておくと、味がしみやすいと同じように、何をしてあげばいいかみんなが集まった時に共有しておく：社会に出た時に自分を助けてくれる具材が隠れている

○その四つをどうコーディネートして一つのプログラムまでやっていけるのか、自分たちの特性を活かしたコーディネート、それがプログラム開発。

○そのためには、教育・力・熱が大切だと思っている。学校教育・社会教育・家庭教育・地域教育・次に力、学校には学校力・・・公民館にだって公民館力がきつとある。

○そしてそこに熱が感じられるかどうか。自分を助けてくれている学校教育には熱を感じているか、公民館に熱を感じるようになっていけるのか。そういう熱き思い。

○力の中にはそういう施設のほか、若者の力・熟年・高齢者・・いくらでもイメージできる。それを力にすれば公民館の文字を幸せな民の館、幸民館。なかなか難しいが地域の人が来た時に今日も幸せに過ごしたんだよと帰っていく。この人たちがここに来たことと幸せな公民館になる。それは人が集まって、きつと学んで、つながりができている。

○今、公民館に何が求められているのか。情報には敏感だけれど、

課題から逃げず見つめるときつと何かが生まれる。みなさん仕掛け人になろう。

分科会C 「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方」 1 発表要旨

○「地域と共に歩む公民館をめざして」

八幡浜市立川之石地区公民館 主事 菊池 敏和

- 1 地域の概要
- 2 公民館の概要
- 3 公民館の活動
 - (1) 学校・PTAとの連携
 - (2) 父親の教育
 - (3) 地域の教育力
- 4 これからの公民館活動と課題
- 5 公民館活動の評価のあり方

○「公民館活動における住民参画の推進と評価の在り方」
「課題解決」と「価値創造」→新居浜市立泉川公民館の取組を踏まえて」

新居浜市立泉川公民館 館長 今西 光昭

- 1 地域の概要
- 2 問題提起
- 3 泉川まちづくり協議会
 - (1) 設立のきっかけ
 - (2) 設置の手法
 - (3) 具体的活動事例
 - (4) 協議会の会議運営の特色
- 4 評価と成果
- 5 今後の課題
- 6 公民館活動における評価

2 質疑応答(内容メモ)

Q 八幡浜市立真穴地区公民館館長 松良昭子

○泉川地区の六部会のそれぞれのメンバーの規模。毎月一回の運営会の詳しい内容。泉川健康体操について。

A 新居浜市立泉川公民館館長 今西光昭

○どこの公民館にも運営審議会があると思うが、だいたいどの地区では例年通りの活動だと思うが、泉川では「まちづくり協議会」で色々な活動を決めていく。その後、内部構成も変化していった。二足のワラジでやってきた団体は自然に除いていき、今は新しいメンバーの者たちでやっている。そして「健康体操」というのはサランラップを使った簡単な体操で、協議会を始める前に行っている。

○泉川の「ねんりんの集い」、喜寿を迎えた人の会で、敬老会とは別もの。「同窓会ができる。」と喜ばれている。「感謝祭」では、金婚式を迎えた方と地域活動を三十年以上された方の表彰をしている。

Q 新居浜公民館館長 高田実

○子ども絆プロジェクトを今年、新居浜でも三泊してもらった。川之石では昨年ホームステイをしたとのことでしたが、ホームステイ先を選ぶのには苦労があったでしょうが、その辺りのことを聞かせてほしい。

A 川之石地区公民館主事 菊池敏和

○平成二十四年度に、県内の公民館主事と大学生ボランティアが中心となり活動している子ども絆プロジェクトのことを知り、この年はチャンポンの振る舞いをした。翌年ホームステイを実施した。昨年十・十一・十二月号と公民館報でホームステイ募集をしたところ、すぐに六件の応募があり、後の二件は苦労したがなんとか出来た。公民館運営審議会や婦人会長らのご尽力が大きかった。そしてホームステイは、今では今治や他でもしている。また、その後もステイ先の人たちとも交流が続いている。

Q 久万高原町公民館中津分館主事 稲田稔久

○東日本大震災の支援として「結い音楽祭」をしている。関連の質問で、川之石で活動拠点となる公民館施設がないため、近くの集会所を利用して会合などをしているとのことですが、不便や苦労

はないでしょうか。

A 川之石地区公民館主事 菊池敏和

○地元からの意見を集めると、川之石の活性化のためには、普通の地区公民館はいらない。子どもから老人まで利用できる複合施設がいいというわけで、組織を立ち上げ運動をしている。

3 各公民館での現状報告

(1) 参加者に聞きたいこと

久万高原町公民館中津分館主事 稲田稔久

○東日本大震災にしても広島の大規模土砂災害にしても、これから避難場所の充実が大切であろう、公民館施設でもそういった対応のものになっていかなくてはならないだろう。災害対策の予備の避難所としても複合の公民館施設としてあり方が求められる。

(司会者) 泉川公民館さん避難所としてはどのようなになっていますか。

新居浜市立泉川公民館館長 今西光昭

○泉川公民館は避難所とはなっている。震災等に対する完璧な対策とは言い切れない。避難所がどうかというよりも「そなえ」という面を強めている。減災をめざして地域一丸となり研究や防災訓練を行っている。

(司会者) どこかの公民館で、水や食料等の備蓄をしているところはありませんか。

Q 新居浜市立若宮公民館館長 木下信

○泉川公民館はトップとも言える活動をされており、皆見習っている。ワカミヤ地区は人口千八百人で児童数は約七十名、新居浜では小さな地区。泉川の「まちづくり協議会の具体的活動事例」とあるが、これは自治会や連合自治会で取り上げるような内容であるかと思う。私も非常に非常に小さな地区で「まちづくり協議会」のような大きなことはできない。地区役員も重複してしまっている状況。泉川では役員等の重複とかないか。推進委員会などでは運営の問題点等お聞かせいただきたい。

A 新居浜市立泉川公民館館長 今西光昭

○校区の人口とかでできることと、そうでないところがあると思います。運営審議会で進めて行くというのも良いかと思えます。そ

の内容です。ね、地域の課題があるかというようなことを協議して決まった内容をどのように進めるか、方向性を決めていけばそれはそれで良いと思います。自治会・まちづくり協議会・運営審議会と組織がで過ぎて困っている。なんとかすっきりした組織へとしたいと考えてはいるが、七年間やってきた組織なので私が続いている間は存続していきませんが、次の世代にはもうちょっとすっきりした形にできないかと検討している。だから地域によってまったく同じことをする必要もなく、運営審議会がどの公民館にもありますし、その中で課題を見つけて自分たちで解決していけばよろしいのではないかと思われる。

4 テーマに対する研究協議

こちらは、会場から意見がなかった。

5 指導・助言

宇和島市立三間公民館 館長 中矢幸男

先日、島根県の松江市で中四国公民館研究大会に行きました。時のこと、二組の事例発表を聞きました。一組目のは人口一万七千人の町のコミュニティセンターで九人の職員がいるとのこと、大きなところだなと思っていました。発表内容は「子供の会のピンチをチャンスに変えた」とありましたが、自分とこの活動のPRばっかして、肝心の表題の子供たちのことがひとつも出てきませんでしたので、あとで助言者の方が、表題と内容が違い助言に苦労しましたと言っておられました。もう一組は人口が五百人の小さな公民館で非常勤の館長と女性主事の二人でしておりまして、ここの話が非常に楽しくて感動的でした。

よくよく考えてみると、大きなところは中身が薄くなってくるのかなと、小さなところは学校の敷地内に公民館がありまして、子供たちが学校の行き帰りに「おはよう、さようなら」や「遊びに来たよ」などのやり取りがあり、非常に住民と公民館が一体化しているというところでいろんなことをされておるようです。公民館が二人でそれだけのことをしているのかと聞いていましたら、公民館から「一声かけたら皆がやってくれるんよ」という具合でいろんなことができています。

愛媛県もそうですが、たぶん、大きなところは手が足りなくそこまで回らないのじゃないのかなと思います。その代わり小さなところ、私のところは人口六千人の三間町で小学校三校と中学校、高校とあり、三人の公民館職員でカバーしていますが、日々ほとんどいろんな所へ出向いては地域の行事をお手伝いしているようなことで、公民館のそのものは主事と主事補の二人が居りますので、私がおらんなくても中の用事は進んでおりますので、私はすすんで出来るだけ町中を走り回りたいというわけで、もう公民館で五年になります。大概の所は回っておりますし町民のほとんどの人の顔を覚ええました。おかげでいろんな行事をやっておりますも、ちょっと人手がほしいなと思うと、こんなお仕事やったらあの人に頼んだらやってくれるなどが分かりだしてから、仕事が楽しくなってきました。

先ほど発表がありました川之石は、南予でもたぶん一番の先進地で歴史のある街です。日本で三代の赤レンガが残ってすばらしい所。ただ、残念なのは公民館の体制は南予地区では一番遅れているのではないかと思います。それ以外のことは地区社協ですごい活動をされていて、大体は女性パワーではありますが、小さい子から老人までいろんなことを寄付金を活用しながら活動し、町に貢献しているのではないのでしょうか。

そのあたりから考えてみると住民と公民館とが敷居がないというところがやはり一番原点かなと、あまり大きく通り一遍な行政的な考えでやりよったのでは、やっぱり住民は来てくれないと思いますし、公民館は住民の中に溶け込んでいくということが一番大事かなと思っております。現実はなかなかで、五年前には百人集まっていたものが、今ではどんなにがんばって集めても五十人がやつとといったことで、何かマンネリ化してきているのかなと思ひ勉強しました。

今、お話されました泉川地区の活動は先日テレビ、新聞紙面や松山市発行の雑誌にも掲載されましたが、たぶん愛媛県でも一番進んでいるのは泉川地区ではないかと思ひます。

各公民館の館長さんや主事さんはぜひ、愛媛県外の大きな公民館の大会に参加されて、よその空気ではないですがいろんな活動を聞

かれてください。松江の大会で講演は「アマ町」のヤマウチ町長で、このアマ町が潰れるところを立て直した町長さんですが、非常にすばらしいお話を聞かせていただきました。その時に会でご一緒した方に、東京大学を出てソニーに勤めアマ町に来た方がおり、その方はたまたま夫婦旅行に来たらすごくいいところであったと言うわけで町長さんとも話し、「アマ町を助けてくれ」とこの移住者に頼み、この方が情報発信元となっていていまままでに四百五十七人の若い人たちがアマ町に来ていたということでした。

私がアマ町の町長さんに公民館はどうですかと尋ねたところ、役場イコール公民館でやっているため、町長さんが仕切ってしまっており非常に中の風通しが良くなっているということでした。

我々も自分たちの地区に戻ったら、少し敷居を低くして住民と対話をし、少し町民の意識を目覚めさせる方向へやっていたらいいなど、先ほどの二人の話も聞き、先進地でありますから上手いこと出来ておるなど、我々もやったらできんことはないなと思えますが、土壌が多少違いまして、東予と中予と南予では住民の気風も違うらしいので、出来る範囲から活動を大きくしていかなければ、最初から大きなものではない人がついてこない。みんなの意見を調整し一緒に出来るものを作っていかなければならない。公民館イコール住民で、と上手いこと連携が取れていけば行政の力を借りなくてもやってくれるという「アマ町」また、今日の発表者二例のことをヒントにし、目標としてがんばっていただけたらなと思います。

分科会D 「学校支援活動や学社融合、また青少年の体験活動を推進

する公民館活動」

1 発表趣旨

○松山市教育委員会 地域学習振興課 主事 土井 宏
「地域資源を活かし、子どもたちの『生きる力』を育む」
資料に基づき、下記項目を説明

- 1 体験学習を通じた人間力育成事業
- (1) 事業の目的
- (2) 事業化の四つの方針

- (3) 事業の概要（市内四地区）
- (4) 期待する効果

2 成果

3 課題

○内子町 大瀬自治センター 係長 大田 陽市

「郷土愛を育む」大瀬エコセミナーの活動について」

資料に基づき、下記項目を説明

1 大瀬地区の概要

2 大瀬自治センターの概要

3 大瀬エコセミナーの活動

- (1) 活動の概要
- (2) 活動の内容
- (3) 活動事例の紹介
- (4) 活動の成果と課題

4 おわりに

2 質疑応答

Q 西予市 野村公民館 主事 清家 卓

○野村公民館の通学合宿では、小学生は参加してもらえないが、ジュニアリーダーとなる中・高生の参加がない。そういった中・高生への参加呼びかけはどうされているのか。

A 松山市 教育委員会 地域学習振興課 主事 土井 宏

○質問のようなジュニアリーダーは、参加してもらえてなく、呼びかけもできていない。ただ、若干の体験活動に中学生が参加してリーダーシップを発揮しており、その辺りでカバーできればと思っている。

A 内子町 大瀬自治センター 係長 大田 陽市

○大瀬エコセミナーの中で、中学生を対象にした夏と冬のエコキャンプで呼びかけをしているが、大瀬地区には中学校が一校しかなく、過疎化・少子化の影響で全校生徒が二十九名で、それぞれが部活動をやっているため、なかなか参加していただけない状況である。逆に小学生はすぐに申し込んでくるが、中学生になるとエコキャンプにはもう行けないかと思っているのではないかと思う。

参加は呼びかけているが、なかなか難しいというのが現状である。
Q 伊方町 教育委員会事務局 社会教育指導員 長野 照道 (助言者)

〔松山市教育委員会地域学習振興課への質問〕

○「立岩タッシュユ村」のスタートが平成二十一年度、「坂本ほんぼこ村」のスタートが平成二十二年度で、このように継続している負担が積み重なり、コーディネーターやサポートの方も大変になってくると思うが、統合とかは考えられているのか。

A 松山市 教育委員会 地域学習振興課 主事 土井 宏

○確かに五年～六年を迎え、農業指導者の方にはかなりのご負担をいただいている。中にはもう今年はこのくらいでよと、辞められるケースも確かにある。そういった時は、また地元で作業が出来る方を選定し、お願いをして何とかやっているところである。

Q 西予市 魚成公民館 館長 芝 明彦

〔松山市教育委員会地域学習振興課への質問〕

○西予市は一つの小学校区に一つの公民館で事業をやっているが、一つの小学校区に市内全域から呼んでいるのはなぜか。また、地域の伝統文化の継承について、他の地域から来てその地域の伝統を学ぶことも大事なことだと思うが、本来はそこに住んでいる小学生在が担っていくべきだと考える。

A 松山市 教育委員会 地域学習振興課 主事 土井 宏

○松山市内には公民館が四十一館あり、それぞれの公民館で地域の小・中学生を対象にした活動を行っているが、それだけではなかなか広がりがないため、中山間地域や島の方に連れて行くことで普段は体験できない活動ができればと考え、市内全域から集めている。実際には「坂本ほんぼこ村」では坂本小学校の子どもは来ていない。これは坂本小学校のイベントと重なっている日が多いことと、小学校のクラブ活動で来れないという現実がある。ただ、活動日によっては坂本地区の子どもたちも参加しており、時折参加する形で小学校と連携を図っている。

伝統文化の継承は、地域の方が伝承していくことが基本であり、これは公民館としても現在進行中である。私たちはこの体験学習

に子どもたちを連れて行き、そういったものを実際に見せて、自分たちの地域での文化継承に繋げてもらう機会を提供していると思っていたきたい。

Q 今治市 今治公民館 館長 越智 優

○それぞれの活動費はどのように賄っているのか。

A 松山市 教育委員会 地域学習振興課 主事 土井 宏

○松山市は四地区でこういう体験学習をしており、それぞれ百万円前後を公民館の事業推進費から補助金として支出し、また、参加者からは一万円を徴収している。

A 内子町 大瀬自治センター 係長 大田 陽市

○基本的には講師の謝礼がメインになり、これは、町から報償費として支出される。また材料費としての負担金が各事業で多くても五百円だが、大きな事業では通学合宿で四千元、エコキャンプでは三千元をいただいている。通学合宿では、負担金と合わせて一人五合の米も持ってきていただき、子どもの保護者からはたくさんの野菜をいただいている。

3 分科会テーマに対する協議

西予市 野村公民館 主事 清家 卓

○中・高生の話に関連して、地域の担い手不足はこの地域にもあると思うが、部活動と両立して、この日は部活を休んでも参加するような体制を取っている館があれば事例を教えてください。

西予市 魚成公民館 館長 芝 明彦

○城川中学校では、学校の中に地域支援会議という会議があり、中学生が地域に出向く活動をしている。例えば月に一回地区の清掃をやっており、中学生も何回かは全員が出てきてくれるし、夏休みには、公民館の窓ガラス掃除とかに三十人くらいが来てくれている。

城川中学校は四公民館を包括する形であるが、公民館主事が地域支援会議に入って交流の話をし、中学生が地域に出向くいろいろな活動が残っているのだと思う。ただ、西予市は、現在小学校の統合が進んでおり、再来年は城川地区の四つの小学校が一つに

なり、中学校区と同じ区域になる。その場合一番危惧するのは、今までは魚成公民館は魚成小学校、土居公民館は土居小学校の校長に公民館運営審議委員に入っていた大きいいろいろなことができていたのが、一つの小学校になった場合に四つの公民館とどう対応するのが非常に難しいことだと思う。過疎地はほとんどそういう傾向になっていくので、県の公民館組織としても、戦後できた一小学校一公民館ではない公民館の動きについて、何かプロジェクトチームを作ったりして研究する余地があるのではないかと。伊方町 教育委員会事務局 社会教育指導員 長野 照道

(助言者)

○高校生のボランティアということで、伊方町では夏休みの八月に小学校四年生から六年生までを対象として伊方から三崎までの約四十kmを歩く活動があるが、隣の八幡浜市川之石高校の生徒がボランティアとして五、六人が参加して子どもと一緒に歩いてもらい、安全確保やリーダー的な役割をしてもらっている。学校側にもどのようなお願いをしているのかは不明だが、おそらく総合的な学習の単位の一部になっているのではないかと思う。

伊方町 中央公民館 館長 林 栄作

○高校生の参加については、事務局から川之石高校と三崎高校の校長先生に参加をお願いしている。今年度は、三崎高校は運動会と重なり参加できなかったが、川之石高校からは十数名が参加していた。川之石高校では事業に参加するとボランティア単位とかいう単位が貰え、卒業式のときに表彰されることもあり多くが参加していると聞いている。

宇和島市 鶴島公民館 主事 上田 和子

○宇和島市では「子どもの絆プロジェクト」の受け入れを考えており、中学生と高校生に企画運営してもらおうと思っている。それは、公民館には小学生の間はたくさん来てくれていたが、中学校になるのと極端に来なくなつたということもあり、私たちが企画するのではなく、子どもたちがしたいことを取り入れることが、部活を休んでも参加しようと思うのじゃないかと考えている。

今治市 城東公民館 館長 別府 正和

○防災がらみで、防災の担い手は中学生ではないか、高齢者がどことも多くなつてきているので、逃げるには中学生が主役になるのではないかと話があり、中学校の先生にそのことを話すと快くそうだねということ、まずは手始めに掃除のときから各地域に出かけましょうということになった。そこで自治会長さんにここにはこういう中学生がいますということをお知らせすることができた。地域の住民からは中学生が来てくれて、顔を合わすことで防災にも役立つということにもなり、熱心な先生を口説くことが一番いい方法じゃないかと思う。

西予市 魚成公民館 館長 芝 昭彦

○公民館の立場からいうと、学校との関係はギブアンドテイクだと思ふ。学校に何が協力できるのか、魚成公民館では読み聞かせのメンバーが毎週水曜日に学校へ行って、全学年に十分間だけ読み聞かせをしている。また、青パトでの巡回数を増やそう、菊づくりの得意な人は一人一鉢で子どもたちと菊を作ろうじゃないかと、そうする中で先生方と話すと案外すんなりと聞いてもらえるので、何も無い机の上で電話でという形ではなく、そういうことの蓄積ではないかと思う。

4 指導・助言

伊方町 教育委員会事務局 社会教育指導員 長野 照道

① 松山市の事例は、今日的な課題を明確に掲げて、疲労を伴う、継続性もあるということで大変気に入った。子どもの活動には、ある程度の肉体的・生理的な負荷をかけないと終わつた後の喜びも少ない。ある程度頑張つて、しんどかつたけれども、こんなことがあつた、楽しかつたということが次のエネルギーに繋がっていくのじゃないかと思う。

また、期待する効果も知的能力や社会・対人関係、自己制御力と明確に掲げており、事業が終わつた後の評価も、掲げたものに対してどれだけの達成率をもってこの事業を終えることが出来たかということ改善への手がかりになり、目的を明確にしたすばらしい実践発表だった。

② 大瀬の事例も、活動概要の中で「郷土愛を育む子どもたちの育

成」ということで、地域を愛する子どもたちが地域で活動、体験をする中で育っていくことを狙ったすばらしい発表であった。狭い地域ではあるが、松山市の発表とは異なり、地域の中で地域の子どもたちが活動し、地域の人たちがサポートしており、いろいろな支援も間接的な松山市よりは直接的で分かりやすかった。

③ 同じような活動を三年継続すると、実施する側としてはマンネリと感じるが、マンネリ自体は中身の工夫である程度解消できるのではないか。

④ 教師、PTA、公民館運営審議会委員とかが集まって協議する中で、子どもたちの伸ばしたい能力は何かということ把握した上で実施することが大事であり、実施後は何か類似したものは壊していく（スクラップにする）という取捨選択を重ねながら少しずつ新しい活動をしていくことが良いのではないか。

⑤ 参加者の減少については、何箇所かが合同で横断的に実施できる行事を考えて、その範囲内の子どもを集めたらどうかと思う。

⑥ 地域が学校の手伝いをするだけなら負担が大きいと感ずるが、学校側も地域の人に入ってもらい授業を充実させたいという気持ちになったときに公民館がコーディネートすれば、すばらしい実践の効果がでてくると思う。

分科会E 「家庭教育を支援する公民館活動」

1 発表要旨

○四国中央市長津公民館 館長 高石 正広

(1) 地域の概要

(2) 取組の内容

(3) 家庭教育支援に関わる事業紹介

①愛護班活動（駅清掃・ふるさと運動・各種体育行事・どんど焼き等）

②放課後子ども教室（お菓子作り・陶芸・生花・俳句等）

③高齢者との交流（敬老会・しめ縄づくり教室・昔の遊び体験教室等）

(4) おわりに

地域の要求課題や必要課題を取り入れ、地域住民主体の活動をしていきたい。

○伊予市中央公民館 主査 野間 美幸

(1) 伊予市の概要

(2) 家庭教育・子育てサポートグループの概要

①目標

②スタッフ構成

③活動範囲

(3) 活動内容

①学習活動（郡中地区公民館家庭教育学級、大平地区子ども語る座談会等）

②情報提供（情報誌「ほのほの」の発行）

③相談活動（グループ相談・個人相談）

(4) 成果と課題

2 質疑応答

Q 松前町 松前町公民館運営審議会 副会長 升田 須賀子

～四国中央市長津公民館への質問～

公民館活動を推進していく中で、学校との繋がりは大事であるが、そのことについて教えてほしい？

A 四国中央市長津公民館 館長 高石 正広

運営委員会は、市の団体等で組織している。行事を行う場合、実行委員として各団体の代表者が参加し、実行委員会を開催している。愛護班活動の場合は、愛護班の団体で行っている。学校との連携は、参加協力のお願いや学校からのお願ひについて常に連絡を取れている。

Q 西条市

～四国中央市長津公民館への質問～

運営は市からの委託で、運営委員会と自治会で行っているとあるが、指定管理または第三セクターといったことなのか？

A 四国中央市長津公民館 館長 高石 正広

第三セクターではない。各地域に公共的機関として運営委員会の地域を立ち上げて運営委員会と市と契約を結んで活動・管理を

公民館の運営委員会が行っている。

市内二十館のうち旧土居町のみ指定管理、旧伊予三島市、旧川之江市については市の直営である。

Q 運営責任者 県公民館連合会役員 池田 昭雄
伊予市中央公民館への質問
地域の公民館との関わり方は？

A 伊予市中央公民館 主査 野間 美幸
中央公民館の方にサポートグループ事務局があるが、学習会等に支援員を派遣してグループ相談等を中心に関わっている。その他の公民館でもこういった家庭教育学級を行っており、公民館活動での講座と一緒に参加している。

Q 愛南町教育委員会 生涯学習課 主事 武久 加奈
伊予市中央公民館への質問
グループ相談会の周知方法は？

A 伊予市中央公民館 主査 野間 美幸
学校参観日後にグループ相談を行いグループ協議を行っている。子育て支援センターへ行き、読み聞かせを行っているが、その後にはサロンのようにグループで悩みなどを話し合いを行っている。相談会では、人がなかなか集まらないので、全体会後に相談会を実施している。

宇和島市立岩松公民館 主事 宇都宮 弘
市内に三十館あるが、生涯学習課から毎年、二事業の依頼があるが、ニーズがある事業に対しては任意で割られるものもあるが、伊予市のように主体的に行っていることが、館によってもあるが、実際は足並みが揃っていない。

3 分科会テーマに対する協議

○ 四国中央市豊岡公民館 主事 阿部 佳人
イベントを通して、伝統文化や文化活動に触れさせることが、家庭教育の面で近道である。また、公民館単独での活動が難しくなってきたので、各種団体と家庭教育を受けられる方の繋ぎ役として活動していくことが重要となってきた。

○ 伊予市教育委員会社会教育課 主査 澤井 伸剛

地域に子どもがいない。また、地域の人口規模が大きい所では、毎回同じ参加者ばかりである。

○ 宇和島市立岩松公民館 主事 宇都宮 弘
子どもが少ないながらも、五十代以上の有志が集まり、「わくわくの会」といったグループにより折り紙、茶道、生け花教室を実施している。また、公民館主事が学校へ赴き、家庭支援を行っている。

○ 愛南町教育委員会 生涯学習課 主事 武久 加奈
松前町では、週一回、子ども教室を実施して子育て支援を行っている。教室の担当者を決める際に、教室の内容により地域の方をお願いして地域の人材を活用して協力いただいている。

○ 松野町 吉野生地区公民館 主事 三好 まり子
子ども達を巻き込んだ活動はどこも難しい。地域の方と一体となった公民館活動に取り組んでいる。地区にある行事の中に全校生徒で参加し、盆踊り大会、運動会、文化祭といった行事には、学校の協力のもと行っている。

西条市では、「チャレンジ」という行事を行っており、月一回で計画を立て開催している。子どもの数が少ない、ものづくりに興味があるが、野外活動といった活動に参加者が集まらない。地域ぐるみで公民館活動を盛り上げるのには、子ども達の力が不可欠と言いつつも、そういった現状がある為に難しい。

○ 四国中央市 天満公民館 主事 近藤 三千代
学校行事の中で公民館の年配の方と昔遊びをしたり、注連縄づくりを行うことによって人が集まりやすい。土日に子ども達を集めることは難しい。平日であれば、放課後子ども教室を開催している。土日であれば、地域によってはスポーツ少年団といった団体が協力的に参加している。なかには、スポーツ少年団でも公民館とかかわりを持っていただけでない団体もあるが、年末の大掃除に施設の使用団体に対して協力依頼をして、かかわりを持てるように活動に取り組みたい。

○ 大洲市 八多喜公民館 主事 磯崎 英一
八多喜公民館は、家庭教育学級は行っていない。地元の小学校

との学社融合といったことで家庭教育を推進している。老人会をメインに地域の子ども達と関わっているが、子ども達が公民館を利用することが少ない。

○ 宇和島市 天神公民館 館長 西田 稔

こどもを守り育てる協議会を年二回実施し、その中で、地域の情報を報告して子どもの健全育成について協議している。

敬老行事等は、スポーツ少年団に参加していただき、会場案内、アトラクション、作文を書いたものを敬老会参加者にお渡ししている。

4 指導・助言

今治市 立花カルチャーセンター 館長 竹内 信子

○ 公民館が家庭教育を支援している活動の事例が少ない。一方、子ども対象の公民館事業が多いことに驚いた。子どもが公民館で行っている事業は、多々あり、子どもがその中で生活のリズム、学習習慣、食育、伝統文化など学ぶ事業が多い。その事業に参加することによって、子どもの情緒の安定、家庭教育支援にも繋がっていくように思う。欲を言えば、もっと工夫をして子どもだけではなくて、親子で参加、親が見守るだけでも家庭教育支援に繋がる。こういった取り組みによって地域の繋がりが、家庭力の向上に繋がると思う。

○ 公民館が子育てに悩む親を対象に悩み相談のできる場所を提供していくことが必要である。月二回、「ママのしゃべり場」という場を設けて、子育て中の母親が自由に出入りできるようにして、母親同士の悩み、交流のできる取り組みを行っている。地域のボランティアの方が十名ほど参加し運営しており、場所の提供のみ行っており、パネルディスカッションで讃岐先生がお話しされていたように、「拘束されない気軽にできるやわらかいネットワーク」という言葉のように、場所の提供のみでイベントは特にする必要がない。子育ての不安を解消し、子育ての仲間をつくり、充実した育児生活が送れるような支援の場、サロンの場が公民館にあればと思う。

○ 公民館事業の手助けをしてくれる地域力向上の為のリーダー育

成を推進していく必要がある。
○ 広報の役割は重要で、公民館の課題の一つであるので、見直しが必要である。また、横の繋がりが重要で、学校との連携、地域との連携を大切にし、双方の共通のニーズを把握しながら、協議をしていく必要がある。



県公連だより

平成二十六年 度

愛媛県公民館連合総会

五月十五日(木)午後、県生涯学習センターにおいて、平成二十六年 度総会を開催しました。

橋本会長の開会あいさつに続いて、愛媛県教育長仙波隆三様より来賓祝辞をいただいた後、議事に入りました。「平成二十五年 度事業報告並びに一般会計歳入歳出決算」「平成二十六年 度基本方針並びに事業計画(案)」「平成二十六年 度一般会計歳入歳出予算(案)」「平成二十六年 度郡市公連合費分担金(案)」等についての審議が行われ原案どおり可決されました。

また、郡市公連合会長退任に伴う役員改選が行われ、副会長二名、理事四名、監事一名が新たに選任され、新しい体制がスタートしました。

平成二十六年 度

公民館新任職員

ネットワークセミナー

六月十二日(木)・十三日(金)の二日間、愛媛県身体障害者福祉センター・道後友輪荘

において、公民館新任職員四十九名が参加し、「活力あふれる公民館をめざして」をテーマにネットワークセミナーを開催しました。一日目は、県教委生涯学習課の先生の講話、実技、先輩主事からの活動報告などを受講しました。二日目には、愛媛新聞社読者事業部のご協力のもとに「親しみやすい公民館報」より良い地域づくりのために」と題した公民館報づくりの実習を受けましたが、二日間に亘り有意義な研修が開催できました。

平成二十六年 度

新任公民館長研修会

六月十九日(木)、県生涯学習センターにおいて、六十名の参加者のもとに新任公民館長研修会を開催しました。県教委生涯学習課、人権教育課等の協力を得て、公民館制度や人権・同和教育についての知識や新任館長としての心構えなど今後の公民館運営に役立つ基礎・基本を身につけることのできる有意義な研修会となりました。

平成二十六年 度

県公連主事部会・公民館職員等 合同一泊研修会

七月三日(木)・四日(金)の二日間、今治市の朝倉村ふれあい交流センターを主会場に三十名が参加して研修会を開催いたしました。研修会では講話のほか、しまなみ海道の

サイクリングや村上水軍博物館の見学など、有意義な研修になりました。

研修の実施に当たり、今治市教育委員会と地元関係者から積極的なご協力をいただきました。

平成二十六年 度

公民館報コンクール審査会

八月二十一日(木)、県生涯学習センターにおいて、一部三十点、二部十八点の応募から慎重に審査が行われ、入選作品は、一部、二部とも七点が選考されました。

平成二十六年 度

愛媛県公民館研究大会

(東温市中央公民館他)

十月八日(水)に東温市中央公民館をメイン会場に、六百二十三名の参加を得て、「新しい公民館像を求めて(公民館の不易と流行)」を主題に研究大会が開催されました。市教育委員会ははじめ関係各位の全面的なご協力を感謝申し上げます。詳細については、本書の大会記録をご覧ください。

平成二十六年 度

県公連専門委員会

平成二十七年一月十五日(木)、県生涯学

習センターにおいて、専門委員会委員四名と会長、副会長（二名）、顧問の出席で委員会を開催し、二十六年事業報告、二十七年事業計画案について意見交換が行われるとともに、財源の確保や行事内容の検討等について専門委員の貴重な意見をいただいた。

平成二十六年度

第三回理事会

一月二十二日（木）、県生涯学習センターにおいて開催し、二十六年度の事業実施状況、一般会計歳入歳出決算見込み、二十七年事業計画案等について協議がなされ、本年度事業及び会計支出が順調に進捗していることが確認されました。

また、二十七年年度の県公民館研究大会等についても協議いたしました。

さらに、機関誌「伊予路」の県公連ホームページへの掲載について協議した結果、掲載することが承認されました。

平成二十六年度

中国・四国地区公民館研究集会 島根大会

平成二十六年九月四日（木）・五日（金）の二日間、松江市「島根県民会館」をメイン会場に第三十七回中国・四国地区公民館研究集会が開催されました。

研究集会では、「人が輝き、地域が輝くコミュニティづくり」（公民館が果たす役割を考

える）」をメインテーマに、第一日は開会行事に引き続き記念講演等が行われ、二日目は「子ども・若者の輝くまちづくり」などの八分科会が開催され、活発な研究・討議が行われました。

島根大会には、全体で千六百五十二名、うち本県からは百十五名が参加しました。

平成二十六年度

全国公民館研究集会 in 埼玉

平成二十六年十月十六日（木）・十七日（金）の二日間、全公連、関東甲信越静公民館連絡協議会、埼玉県公民館連絡協議会の主催で第三十六回全国公民館研究集会が埼玉県熊谷市の「埼玉県熊谷会館」をメイン会場に開催さ

愛媛県公友会について

愛媛県公友会（若松進一会長・会員数三十三名）は、県公連、郡市・地区公連の役員であった方、県教育委員会等で公民館担当者であった方、学識経験者や会の趣旨に賛同する方などが会員となり、本県の社会教育の進展や地域づくりに寄与することを願って、共に集い、今なお学び、情報交換を行っております。

会では、「あつまる・まなぶ・つなぐ」を基本理念としており、公民館関係の職場を去られてからも、公民館を愛し熱い気持ちを持たれている方々が「新会員」として集まれる

れ、全国から千二百七十六名、うち本県からは四十名が参加しました。

研究集会は、「公民館よ あつくなれ！」時代の変化に対応し、地域との連携を深める公民館をめざして」をメインテーマに、第一日は、開会行事、文部科学省施策説明に続いて、記念講演「人生の証明」～実りある人生の実りとは～（作家 森村 誠一氏）等がありました。

二日目は、「まなびまなびあう公民館」などの五分科会が開催され、事例発表、質疑応答、討議などが活発に行われました。

なお、二十七年年度の第三十七回全国公民館研究集会（第三十八回中国・四国地区公民館研究集会）は、十月十五日（木）・十六日（金）の二日間、鳥取県鳥取市で開催される予定です。

ことを、願っています。

これからも、会員一同、本県の公民館活動の活性化と社会教育の推進に微力を尽くしていきたいと願っています。

ご加入の問い合わせ・申し込み先

〒七九一―一―一三六

松山市上野町甲六五〇

県生涯学習センター

県公民館連合会事務局内

愛媛県公友会事務局

TEL 〇八九―九六三―三五八三

（ファクシミリ 同番号）

編集後記

◎「伊予路」第五十一号をお届けします。
災害列島日本と言われるように、豪雨、火山噴火化など多くの自然災害が発生するともに、痛ましく悲しい事件や事故も多い一年でした。人々が協力し合い、温かく連携の保てる地域づくりが一層求められており、公民館の果たす役割はますます重要となってきていると思っています。

◎昨年度は台風来襲で県大会が中止となったことから心配をしておりましたが、本年度は、東温市で多数の参加者のもとに盛大に県公民館研究大会が開催されました。

開会行事に次ぐパネルディスカッションも好評でした。関係者の皆様方のご協力とご尽力に厚く感謝申し上げます。

◎県公連主事部会が中心となり、実施しました「一泊研修会」では、研修の一環として「しまなみ海道」のサイクリングを体験しました。来島海峡大橋の往復でしたが、海風の中を走り抜けた参加者の皆さんは気分爽快だったことと存じます。

◎今年度も残りわずかですが、県公連事も予定どおり何とか無事終えることができそうです。これも、ひとえに県教委・市町教委・郡市公連並びに関係各位のご支援・ご協力の賜であり、ここに厚く感謝を申し上げます。

◎今回も、各地の公民館での活発な活動の様子が記事になりました。
「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の合言葉の中でも、まずもって「つどう」を大切にしながら人の輪が広がっていく公民館活動が繰り広げられますことを願っています。

愛媛県公民館連合会機関誌

伊 予 路 第一五一号

発行 愛媛県公民館連合会

松山市上野町甲六五〇

愛媛県生涯学習センター内

発行年月日 平成二十七年三月十三日

印刷 三創印刷株式会社

☎〇八九―九三三―〇二六八



平成26年度

(平成26年5月1日～平成27年5月1日)

自治公民館を含む
すべての公民館活動を
支援する制度です。

公民館総合補償制度

市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定められた「公民館の目的」に寄与するための施設等は、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された公民館もご加入いただけます。

1. 行事傷害補償制度 [災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約付帯)+見舞金制度]

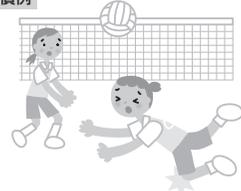
保険

- 公民館行事参加者のケガを補償します。
- 公民館利用者のケガを補償します。
- 行事の事前練習、準備中、後片付け、行事参加者の往復途上のケガを補償します。

見舞金制度

- 急性疾病に死亡弔慰金、入院見舞金(1日目から)を支給します。
- 公民館建物災害(火災・地震・水災)に見舞金を支給します。

補償例



- バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

行事傷害補償制度のここがおすすめ

手続きが簡単!

- 年1回の加入手続きで年間の行事が対象になり、個別の行事予定の通知は不要です。

対象者が広い!

- 行事参加者や公民館利用者の居住地は問いません。
- 公民館が公認するサークル活動の参加者も補償します。
- 有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 親が参加する行事に同伴した同居の未就学児も補償します。

補償範囲が広い!

- 日本国内であれば、行事の場所は問いません。
※別に定める危険な運動中などは対象外です。
- 公民館が参加者を事前に名簿で把握している場合は、往復途上も補償します。
- 食中毒や熱中症も補償します。
- 宿泊をとまなう行事も対象です。

掛金の割引あり!

- 同一市町村内で10館以上まとめて加入する場合には、掛金の割引制度があります。

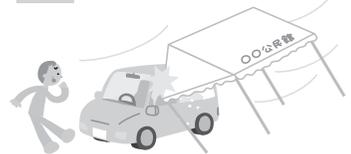
2. 賠償責任補償制度 [賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約付帯)]

保険

- 公民館の施設の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、物を破損し、公民館が法律上の賠償責任を負担した場合に補償します。

注) 公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

補償例



- テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

3. 職員災害補償制度 [普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約付帯)+見舞金制度]

保険

- 公民館業務に携わる方の業務中のケガを補償します。

見舞金制度

- 公民館業務に携わる方の病気や業務外のケガに死亡弔慰金や入院見舞金(1日目から)を支給します。

補償例



- 職員が業務中に脚立から転落して負傷。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「平成26年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー総合補償サービスまたは損保ジャパン日本興亜までお寄せください。

■引受保険会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

営業開発部第三課
〒100-8965 東京都千代田区霞が関3-7-3
TEL 03-3593-6436
FAX 03-3593-6564

「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は、損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併して誕生した会社です。

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)
エコー総合補償サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9
TEL ☎ 0120-636-717
FAX ☎ 0120-226-916